

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

観光施策の基礎資料とすることを目的として、高知県内の観光地で四季ごとにアンケート調査を実施し、観光客の動向を把握するとともに調査結果の分析を行った。

調査精度の均一化を図るため、委託事業者が時間帯を 10 時から 17 時まで偏りが無いように調整しながら、1 グループに 1 名（1 回答）を徹底した対面聞き取り方式により調査を実施した。

とりまとめにあたっては、アンケート調査に基づく全般的な傾向等について記載するとともに、それぞれの調査項目について、その特徴的な事項の説明を加えた。

なお、暦年調査のため、参考資料は冬春夏秋の順に表示している。

● アンケート調査地（10カ所）

室戸岬、モネの庭、龍河洞、アンパンマンミュージアム、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川観光開発遊覧船乗場、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬期：平成 22 年 12 月 19 日～平成 23 年 1 月 29 日
- ・ 春期：平成 23 年 4 月 29 日～平成 23 年 5 月 7 日
- ・ 夏期：平成 23 年 7 月 31 日～平成 23 年 8 月 28 日
- ・ 秋期：平成 23 年 11 月 6 日～平成 23 年 12 月 3 日

※冬期のモネの庭、夏期のアンパンマンミュージアム、秋期の龍河洞、モネの庭、四万十川観光開発遊覧船乗場では、1 日で十分なサンプル数を得ることができず、2 日間調査を行った。

● 平成 23 年度観光統計調査の特徴

県内旅行日数は前年比 0.1 日増の 2.0 日。

日帰り客と宿泊客の割合（表 3-1）は、「日帰り」旅行が前年比 3.8 ポイント減の 37.0% と、前年の“日帰り客割合の増加・宿泊客割合の減少”傾向が弱まった結果となった。そのため、県内旅行の平均日数（図 5-1）は 2.0 日となり、前年比で 0.1 日の増加となっている。

関東から航空機を利用した旅行者が増加。しかし、依然として自家用車が大半。

発地ブロック別入込割合（表 4-1）では、「関東」からの旅行者が 13.5% と平成 19 年度からの調査では最も多くなる一方「中国・四国」からの旅行者が減少している。この影響で入込利用交通機関の割合（表 7-1）は、「自家用車」が前年比 2.2 ポイント減の 80.0% となり、「航空機」の利用が前年比 1.9 ポイント増の 7.6% となっている。

『龍馬伝』放映効果の弱まり。自然や景観への関心の増加。

旅行の主な目的の割合（表 6-1）は、「名所旧跡などの見学・行楽」の割合が前年比で 15.1 ポイント減少したものの 31.1% と最も多く、「自然見物・町歩き」が前年比 10.9 ポイント増加し 27.5% となっている。大河ドラマ『龍馬伝』の放映が終了したことにより歴史関連施設への関心が一定落ち着き、平成 23 年 9 月に世界ジオパークに認定された室戸ジオパークなどを中心に自然・景観へシフトしたと思われる。

平均消費額は 1,354 円の増加。その大半は交通費の増加によるもの。

県内平均消費額（図 10-1）は、24,542 円で、前年比 1,354 円の増加となった。その内訳（参考 12）を見ると、入場料を含む「その他」が前年比で約 460 円減少、「宿泊費」「飲食費」「土産代」はほぼ横ばい、「交通費」が前年比で約 1,650 円増加となっている。

県西部での宿泊施設の利用が減少。

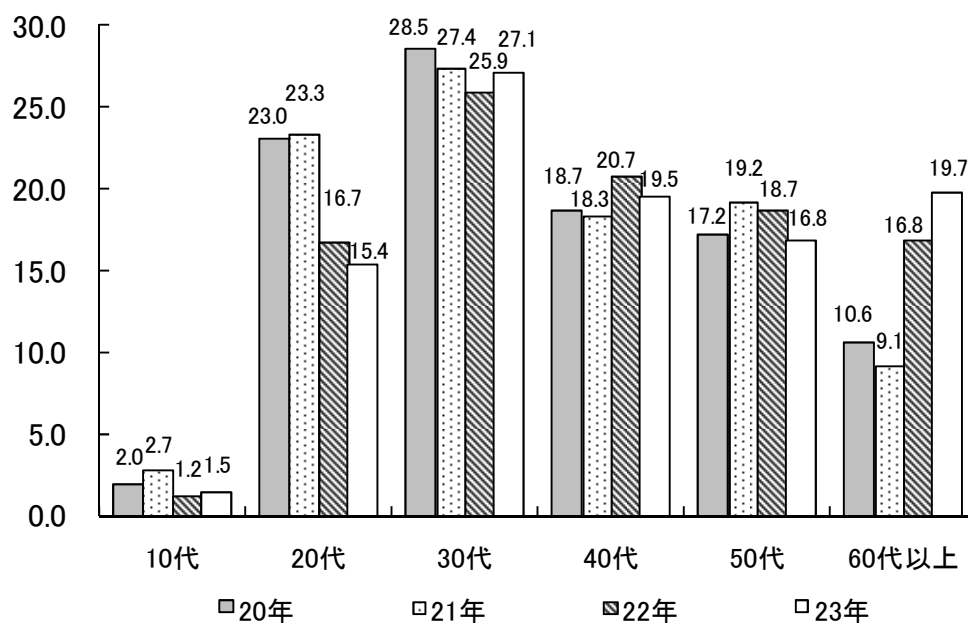
また、県内での宿泊地域の割合（図 11-1）は、「幡多」地域が前年比 2.7 ポイント減少の 20.9%、「高幡」や「中央西」でも減少となりました。その反面で、「中央・中央東」地域で前年比 3.4 ポイント増の 61.3%、「東部」が前年比 1.0 ポイント増の 7.9% と、県西部での宿泊が前年に比べ少なくなっている。

2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [23 年、過去 3 年間]

年代	年	20年 (n=2352)	21年 (n=2362)	22年 (n=2967)	23年 (n=2929)	対前年比 23年/22年
10 代	件	48	64	36	44	125.0%
	%	2.0	2.7	1.2	1.5	
20 代	件	540	551	494	452	92.2%
	%	23.0	23.3	16.7	15.4	
30 代	件	671	646	768	794	104.6%
	%	28.5	27.4	25.9	27.1	
40 代	件	439	432	615	570	94.2%
	%	18.7	18.3	20.7	19.5	
50 代	件	404	453	554	492	89.8%
	%	17.2	19.2	18.7	16.8	
60代以上	件	250	216	500	577	117.3%
	%	10.6	9.1	16.8	19.7	

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [23 年、過去 3 年間]



(参考 1) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [23 年、過去 2 年間]

年代	年	平成21年 (n=2362)		平成22年 (n=2967)		平成23年 (n=2929)	
		男	女	男	女	男	女
10 代		32	32	16	20	27	17
		50.0	50.0	44.4	55.6	61.4	38.6
20 代		297	254	251	243	244	208
		53.9	46.1	50.8	49.2	54.0	46.0
30 代		402	244	465	303	446	348
		62.2	37.8	60.5	39.5	56.2	43.8
40 代		303	129	406	209	349	221
		70.1	29.9	66.0	34.0	61.2	38.8
50 代		325	128	361	193	312	180
		71.7	28.3	65.2	34.8	63.4	36.6
60代以上		159	57	328	172	367	210
		73.6	26.4	65.6	34.4	63.6	36.4
計		1518	844	1827	1140	1745	1184
		64.3	35.7	61.6	38.4	59.6	40.4

年代別割合を平成 20 年度の調査から通してみると、今回調査の 60 代以上が 19.7%と最も多い割合となった。その反面、20 代は 15.4%と最も低くなっている。

今回調査だけで年代別割合をみると、30 代が 27.1%と最も多く、次いで 60 代以上の 19.7%、40 代の 19.5%となっている。

平成 22 年度以降、20 代が年々減少しており、その反面で 60 代以上が急激に増加している。高知県の魅力を若い世代に知ってもらうための PR が重要と考えられる。

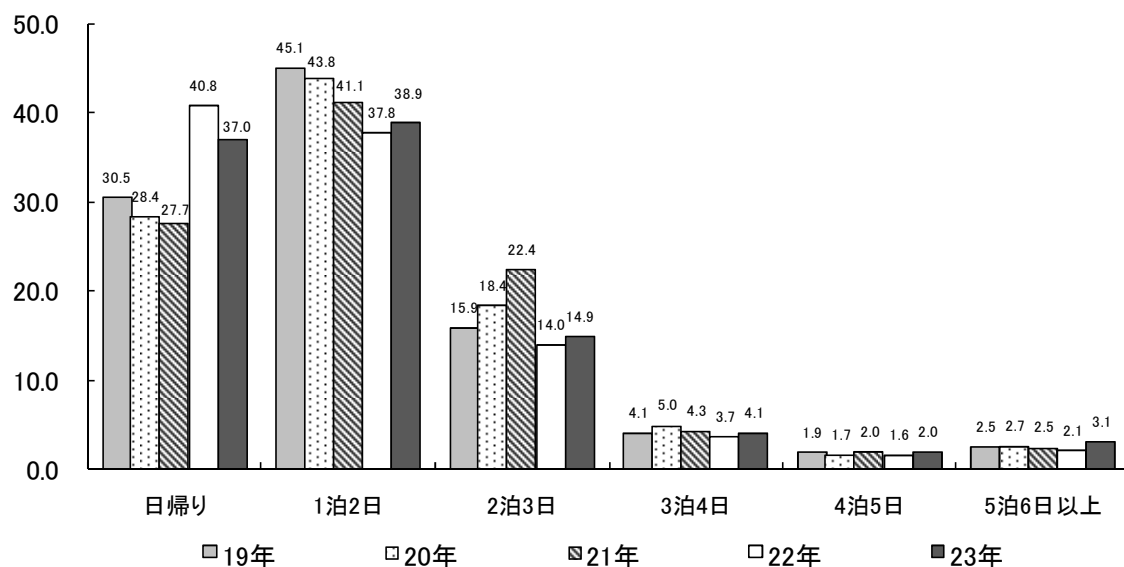
男女比は、全体で 59.6% : 40.4%となった。女性の割合が前年調査から 2.0 ポイント増加している。年代別でみた男性の割合は、60 代以上の 63.6%が最も多く、20 代の 54.0%が最も少なくなっている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [23 年、過去 4 年間]

年	旅行日数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
		19年 (n=2316)	706 30.5	1044 45.1	368 15.9	95 4.1	45 1.9
20年 (n=2352)	668 28.4	1029 43.8	432 18.4	118 5.0	41 1.7	64 2.7	
21年 (n=2362)	655 27.7	971 41.1	528 22.4	102 4.3	48 2.0	58 2.5	
22年 (n=2967)	1212 40.8	1123 37.8	415 14.0	109 3.7	47 1.6	61 2.1	
23年 (n=2929)	1084 37.0	1140 38.9	437 14.9	119 4.1	58 2.0	91 3.1	

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [23 年、過去 4 年間]



(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [23 年、22 年]

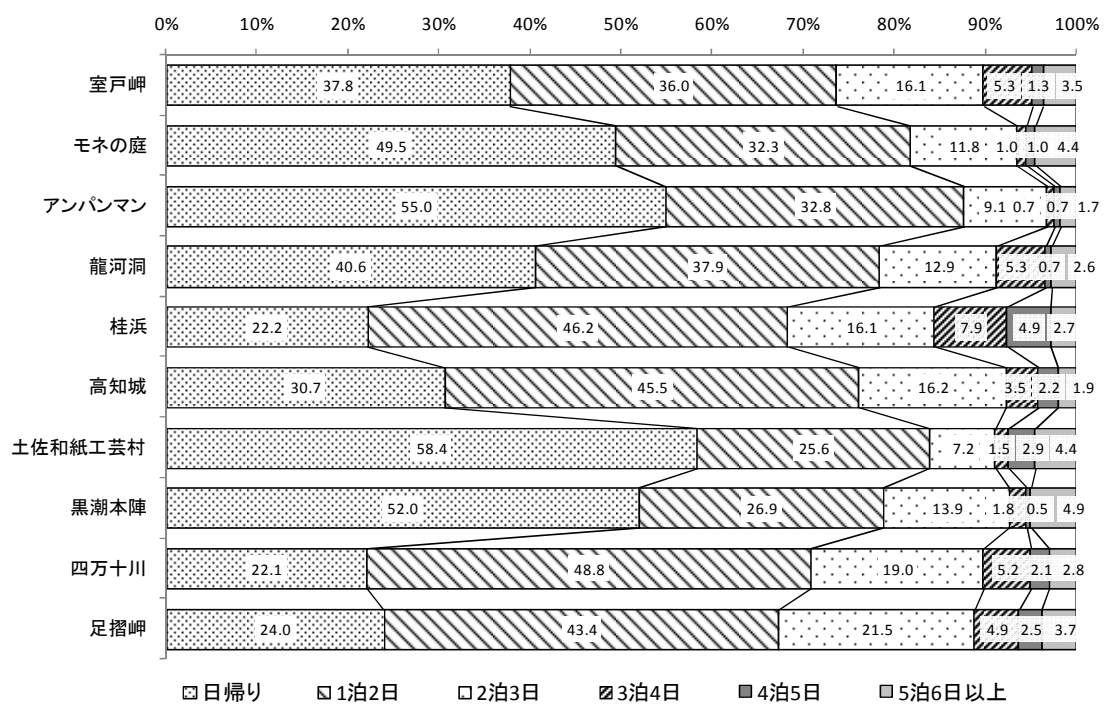
		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	22年	198 34.9	193 34.0	102 18.0	37 6.5	19 3.4	18 3.2
	23年	289 41.5	245 35.2	90 12.9	33 4.8	13 1.9	26 3.7
春	22年	336 42.0	282 35.3	117 14.6	36 4.5	14 1.8	14 1.8
	23年	313 37.5	330 39.5	138 16.5	22 2.6	16 1.9	17 2.0
夏	22年	337 39.7	345 40.6	117 13.8	23 2.7	10 1.2	17 2.0
	23年	204 27.9	300 41.0	135 18.5	42 5.8	20 2.7	30 4.1
秋	22年	339 45.1	305 40.6	79 10.5	13 1.7	4 0.5	12 1.6
	23年	278 41.7	265 39.8	74 11.1	22 3.3	9 1.4	18 2.7

日帰り客と宿泊客の割合を平成 19 年度の調査から通してみると、「日帰り」旅行は過去 2 番目の多さ、「1泊2日」と「2泊3日」は過去 2 番目の少なさとなっており、「5泊6日以上」は過去最も多い割合となっている。

前年との比較では、「日帰り」が 3.8 ポイント減、「1泊2日」が 1.1 ポイント増、「2泊3日」が 0.9 ポイント増などと近年続いている『日帰り客割合の増加・宿泊客割合の減少』傾向が弱まった結果となっている。

日帰り客と宿泊客割合の四季別データを前年比較すると、冬期は「日帰り」が前年より 6.6 ポイント増、宿泊客では「2泊3日」が 5.1 ポイント減と目立って少なくなっている。春期は「日帰り」が 4.5 ポイント減、宿泊客では「1泊2日」が 4.2 ポイント増加している。夏期は「日帰り」の割合がさらに少なくなり、11.8 ポイント減、宿泊客では「2泊3日」が 4.7 ポイント増加し、他の宿泊客項目でも全て増加しています。秋期は「日帰り」が 3.4 ポイントの減少、宿泊客では「3泊4日」が 1.6 ポイント増という結果となった。

(参考2) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [23 年]



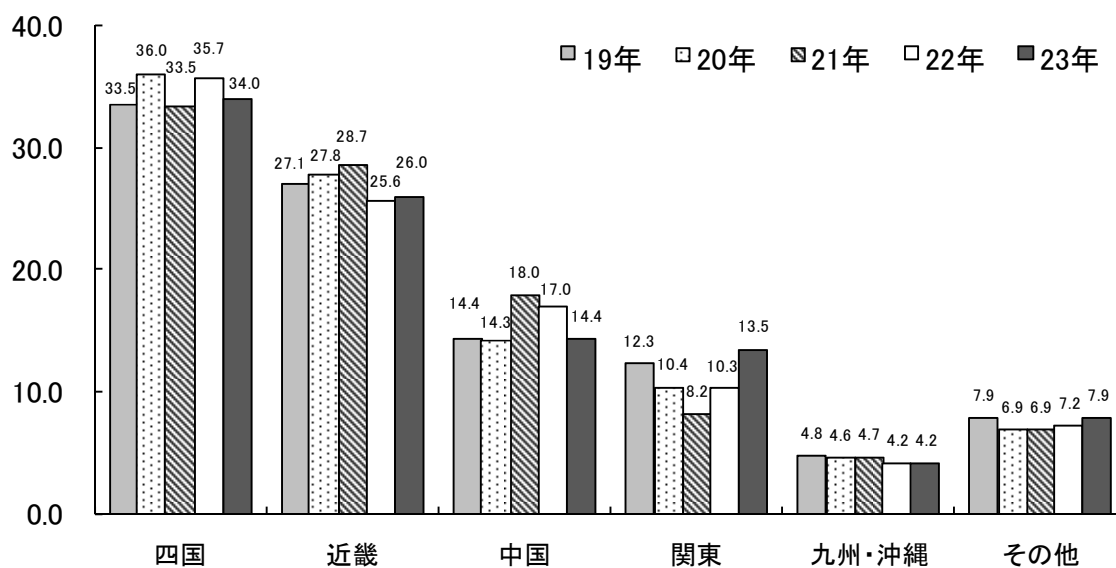
調査地別で日帰り客と宿泊客の割合（P9：参考2）をみると、土佐和紙工芸村、アンパンマンミュージアム、黒潮本陣では「日帰り」の割合が半数を超えている。一方で高知市内の桂浜と高知城、幡多地域の足摺岬と四万十川では、「日帰り」よりも「1泊2日」の割合が多くなっており、幡多地域では「2泊3日」も20%前後と多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [23 年、過去 4 年間]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
19年 (n=2316)	775 33.5	627 27.1	335 14.4	285 12.3	112 4.8	182 7.9
20年 (n=2352)	847 36.0	653 27.8	336 14.3	244 10.4	109 4.6	163 6.9
21年 (n=2362)	791 33.5	679 28.7	426 18.0	193 8.2	111 4.7	162 6.9
22年 (n=2967)	1059 35.7	759 25.6	505 17.0	306 10.3	124 4.2	214 7.2
23年 (n=2929)	995 34.0	762 26.0	423 14.4	395 13.5	124 4.2	230 7.9

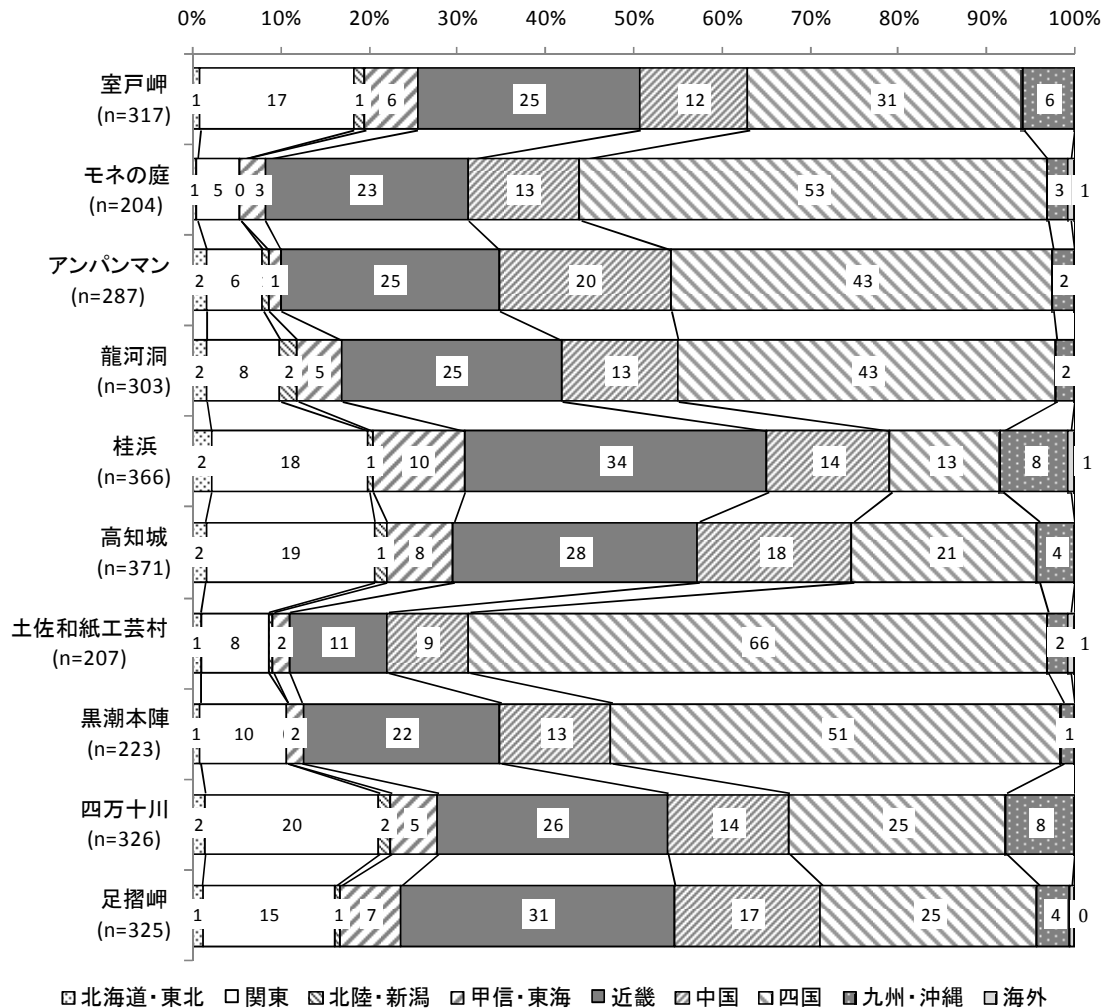
(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [23 年、過去 4 年間]



(参考 3) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [23 年、過去 4 年間 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
19年 (n=2316)	775 33.5	627 27.1	335 14.4	285 12.3	112 4.8	137 5.9	23 1.0	13 0.6	9 0.4	0 0.0
20年 (n=2352)	847 36.0	653 27.8	336 14.3	244 10.4	109 4.6	123 5.2	18 0.8	13 0.5	9 0.4	0 0.0
21年 (n=2362)	791 33.5	679 28.8	426 18.0	193 8.2	111 4.7	117 5.0	20 0.8	20 0.8	5 0.2	0 0.0
22年 (n=2967)	1059 35.7	759 25.6	505 17.0	306 10.3	124 4.2	165 5.6	26 0.9	16 0.5	7 0.2	0 0.0
23年 (n=2929)	995 34.0	762 26.0	423 14.4	395 13.5	124 4.2	157 5.4	27 0.9	21 0.7	20 0.7	5 0.2

(参考 4) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [23 年]



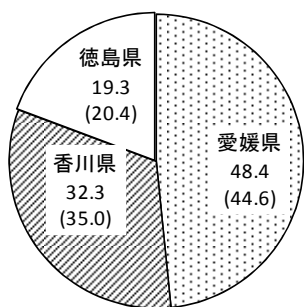
発地ブロック別入込割合を平成19年度の調査から通してみると、最も目立ったのは、ここ3年で唯一増加傾向にある関東からの旅行者の割合で、今回の調査では過去最高の13.5%となっている。四国（高知県を除く：以下同様）と中国が過去3番目、近畿と九州・沖縄は過去4番目の多さとなった。その他のブロック（参考3）では、北海道が過去最高の割合となっている。

前年との比較では、関東が3.2ポイント増、近畿が0.4ポイント増となり、九州・沖縄は横ばい、中国が2.6ポイント減、四国が1.7ポイント減となっている。

調査地別での入込割合を発地ブロックで見ると（参考4）、土佐和紙工芸村では四国からの入込が66%、モネの庭が53%、黒潮本陣が51%と半数を超えている。四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合をみると、モネの庭（89%）、アンパンマンミュージアム（88%）、土佐和紙工芸村（86%）、黒潮本陣（86%）などが多くなっている。人口の多い関東・近畿ブロック合計では、桂浜が52%と半数を超え、次いで高知城の47%、足摺岬と四万十川が46%と続いている。

なお、調査地別の入込割合一位は四国が6地点、近畿が4地点となっており、同二位は近畿が6地点、四国が3地点、関東が桂浜の1地点という結果となっている。

(図 4-3) ブロック別・四国(%)

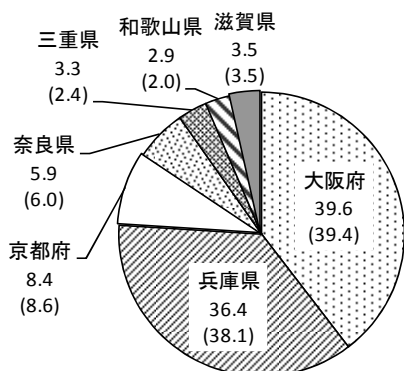


() は 22 年

前年と比べ、愛媛が 3.8 ポイント増。徳島が 1.1 ポイント減、香川が 2.7 ポイント減となった。

愛媛は全体の入込割合で一位、また 4 地区の調査地において入込割合の一位となり、特に土佐和紙工芸村では 55%を占めている。香川は全体の二位、龍河洞とアンパンマンミュージアムの一位となっている。徳島は全体の六位、室戸岬の一位という結果となっている (参考 5)。

(図 4-4) ブロック別・近畿(%)

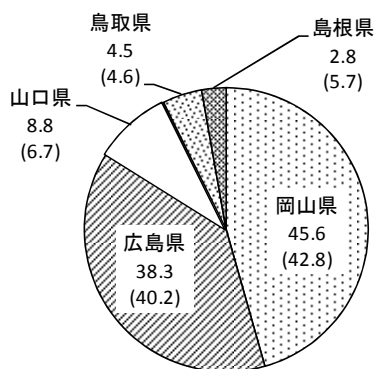


() は 22 年

前年と比べ、三重と和歌山が 0.9 ポイント増、大阪が 0.2 ポイント増。兵庫が 1.7 ポイント減、京都が 0.2 ポイント減、奈良が 0.1 ポイント減。滋賀は増減なし。大阪と兵庫の 2 府県で 76.0%と、近畿ブロックの約四分之三を占めている。

大阪は全体の入込割合で三位、桂浜と高知城の一位、足摺岬と室戸岬で二位となっている。兵庫は全体の四位、高知城、桂浜、足摺岬、四万十川で二位という結果となっている (参考 5)。

(図 4-5) ブロック別・中国(%)



() は 22 年

前年と比べ、岡山が 2.8 ポイント増、山口が 2.1 ポイント増。島根が 2.9 ポイント減、広島が 1.9 ポイント減、鳥取が 0.1 ポイント減となった。岡山と広島は 2 県で 83.9%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で五位、調査地別ではアンパンマンミュージアム、高知城、足摺岬で多くなっている。広島は全体の八位、調査地別では高知城、桂浜、四万十川などで多いという結果となっている (参考 5)。

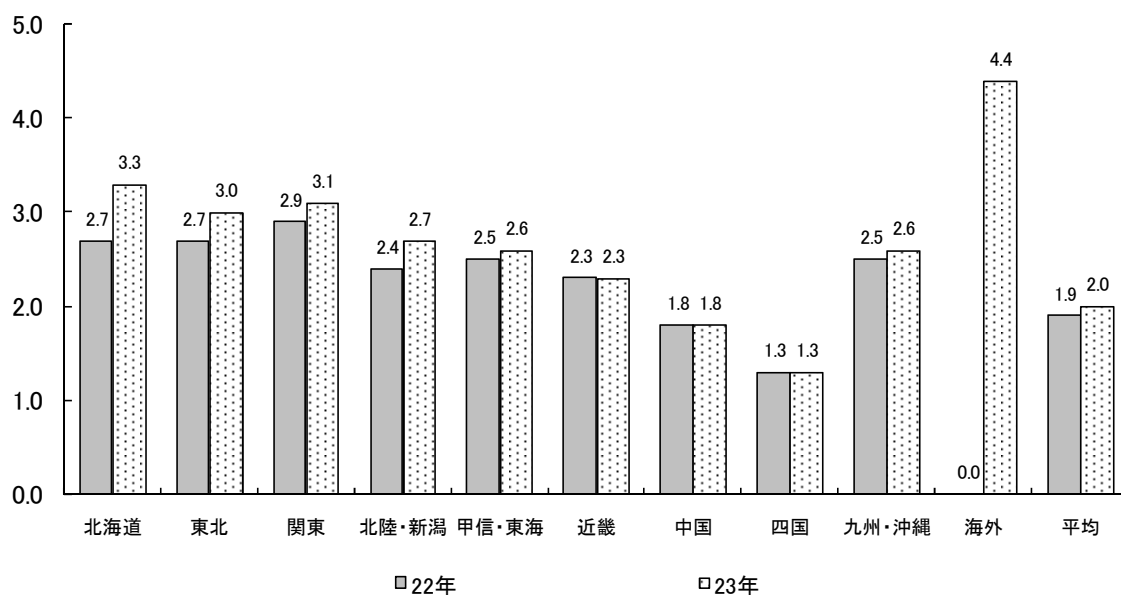
(参考5) 調査地別発地都道府県別入込(件) [23年]

発地	調査地	調査地											全体	順位
		室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬			
県外合計		317	204	287	303	366	371	207	223	326	325	2929	-	
北海道・東北	北海道	1	1	2	3	5	3	1	1	2	1	20		
	青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	岩手県	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	5		
	宮城県	0	0	0	1	0	2	1	0	1	2	7		
	秋田県	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2		
	山形県	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3		
	福島県	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	4		
北海道・東北計		3	1	5	5	8	6	2	2	5	4	41	-	
関東	茨城県	3	0	0	1	0	4	0	0	6	2	16		
	栃木県	0	0	0	1	2	1	0	0	1	1	6		
	群馬県	3	0	1	1	2	0	0	0	1	3	11		
	埼玉県	8	0	4	3	15	8	3	0	14	7	62		
	千葉県	6	0	1	2	6	5	2	2	6	4	34		
	東京都	18	9	5	10	30	33	9	14	26	16	170	7	
	神奈川県	17	1	7	7	10	20	2	6	10	16	96	10	
関東計		55	10	18	25	65	71	16	22	64	49	395	-	
北陸・新潟	新潟県	1	0	0	1	0	2	1	0	0	1	6		
	富山県	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	4		
	石川県	2	0	2	1	1	2	0	0	2	0	10		
	福井県	1	0	0	3	0	0	0	0	2	1	7		
北陸・新潟計		4	0	2	6	2	5	1	0	5	2	27	-	
甲信・東海	山梨県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
	長野県	1	1	0	2	2	3	0	0	1	2	12		
	岐阜県	1	0	0	2	8	4	2	0	1	1	19		
	静岡県	3	1	2	1	6	2	0	1	3	4	23		
	愛知県	14	4	2	10	22	19	2	3	11	15	102	9	
甲信・東海計		19	6	4	15	38	28	4	4	17	22	157	-	
近畿	三重県	0	1	3	4	4	4	1	2	3	3	25		
	滋賀県	6	0	1	2	8	3	0	2	1	4	27		
	京都府	8	4	6	4	12	12	1	3	6	8	64		
	大阪府	35	24	24	32	53	36	8	18	35	37	302	3	
	兵庫県	26	14	32	27	35	34	13	23	36	37	277	4	
	奈良県	3	2	4	4	8	12	0	1	4	7	45		
和歌山県	2	2	1	3	6	2	0	1	0	5	22			
近畿計		80	47	71	76	126	103	23	50	85	101	762	-	
中国	鳥取県	1	4	5	0	3	2	0	1	0	3	19		
	島根県	1	0	2	2	4	1	0	0	1	1	12		
	岡山県	18	13	31	22	13	27	6	19	17	27	193	5	
	広島県	15	9	15	14	22	29	12	8	21	17	162	8	
	山口県	4	0	3	2	9	6	1	0	6	6	37		
中国計		39	26	56	40	51	65	19	28	45	54	423	-	
四国	徳島県	38	27	30	34	5	18	4	14	8	14	192	6	
	香川県	28	29	53	53	15	29	19	41	26	28	321	2	
	愛媛県	33	52	41	43	26	31	113	59	46	38	482	1	
四国計		99	108	124	130	46	78	136	114	80	80	995	-	
九州・沖縄	福岡県	14	4	5	2	16	6	4	1	13	3	68	11	
	佐賀県	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3		
	長崎県	1	0	0	0	0	2	1	1	1	3	9		
	熊本県	1	1	0	1	1	0	0	0	4	1	9		
	大分県	1	0	0	0	4	2	0	0	6	3	16		
	宮崎県	1	0	0	2	1	1	0	1	0	1	7		
	鹿児島県	0	0	1	1	4	2	0	0	1	1	10		
沖縄県	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2			
九州・沖縄計		18	5	7	6	28	15	5	3	25	12	124	-	
海外		0	1	0	0	2	0	1	0	0	1	5	-	
高知県		83	196	113	97	34	29	193	177	74	75	1071	-	

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [23 年、22 年]



23年の県内旅行日数の平均は、前年から0.1日増の2.0日となった。発地ブロック別にみると、横ばいの四国、中国、近畿をのぞいた全てのブロックで増加している。

入込上位11位までの都道府県別に県内旅行日数の割合をみると(参考6)、関東(東京・神奈川)は「1泊2日」と「2泊3日」の割合が多くなっている。愛知、近畿(大阪・兵庫)、福岡は「1泊2日」が突出して多く、中国(岡山・広島)は「日帰り」と「1泊2日」ともに多く、四国は「日帰り」が大半を占めている。

この都道府県別の旅行日数割合が前年からどのように増減したかをみると(参考8)、近畿は「日帰り」が減少し、「2泊3日」が増加している。中国は「1泊2日」が増加し、他の項目で横ばい、または減少。四国では「1泊2日」が増加し、「日帰り」の減少した香川以外はほぼ横ばいとなっている。

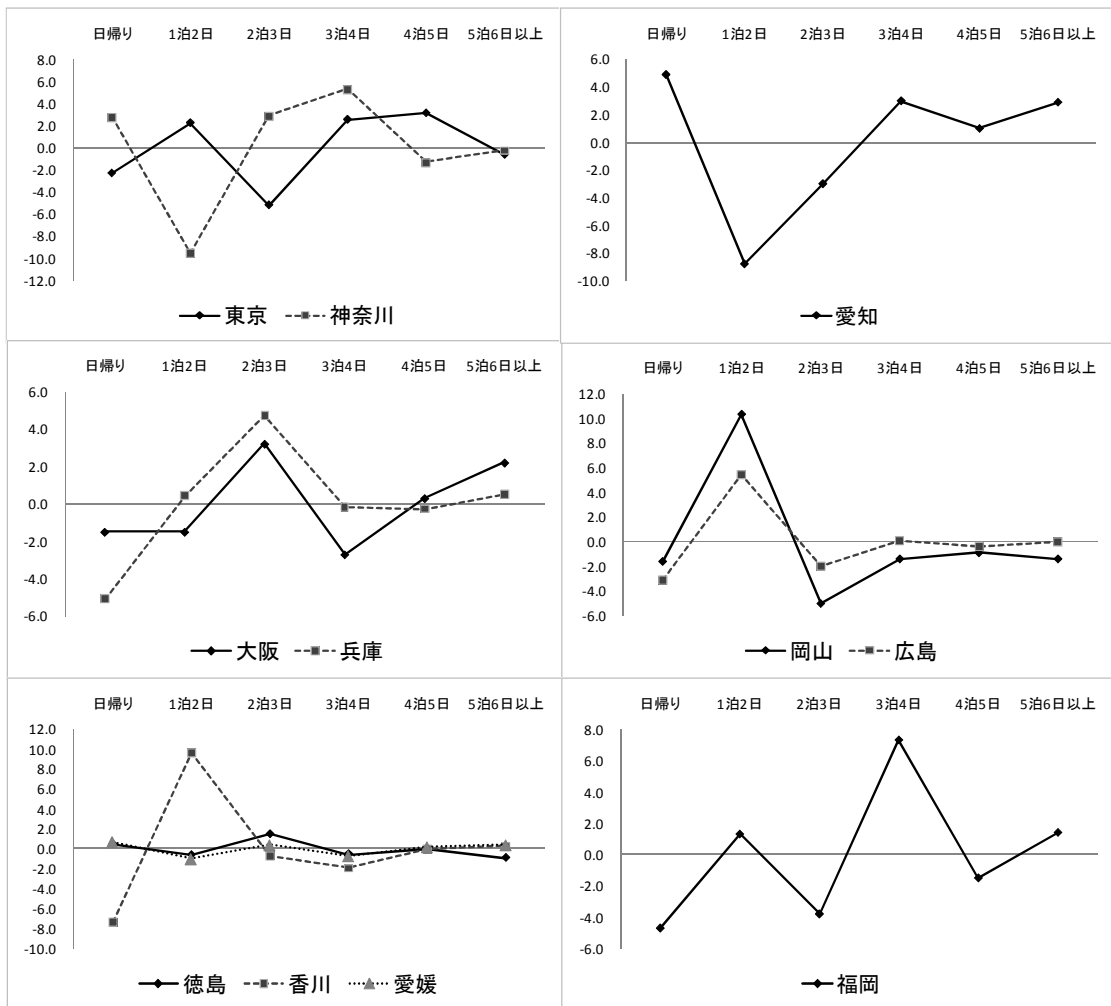
(参考 6) 発地別県内旅行日数割合(%) [23 年 上位 11 位まで]

	東京	神奈川	愛知	大阪	兵庫	岡山	広島	徳島	香川	愛媛	福岡
日帰り	3.5	4.2	14.7	15.9	19.5	46.1	35.8	74.5	69.2	78.2	5.9
1泊2日	36.5	30.2	47.1	50.0	52.7	48.7	53.7	19.8	26.8	19.1	54.4
2泊3日	30.6	38.5	19.6	22.2	21.3	4.2	9.3	5.2	3.1	1.5	23.5
3泊4日	11.8	13.5	6.9	5.0	2.9	0.5	0.6	0.0	0.3	0.2	10.3
4泊5日	8.2	4.2	3.9	3.0	0.7	0.0	0.6	0.5	0.3	0.6	1.5
5泊6日以上	9.4	9.4	7.8	3.9	2.9	0.5	0.0	0.0	0.3	0.4	4.4

(参考 7) 発地別県内旅行日数割合(%) [22 年 上位 11 位まで]

	東京	神奈川	愛知	大阪	兵庫	岡山	広島	徳島	香川	愛媛	福岡
日帰り	5.8	1.4	9.8	17.4	24.6	47.7	38.9	74.0	76.5	77.5	10.6
1泊2日	34.2	39.7	55.9	51.5	52.3	38.4	48.3	20.4	17.2	20.1	53.1
2泊3日	35.8	35.6	22.6	19.0	16.6	9.2	11.3	3.7	3.8	1.1	27.3
3泊4日	9.2	8.2	3.9	7.7	3.1	1.9	0.5	0.5	2.2	0.9	3.0
4泊5日	5.0	5.5	2.9	2.7	1.0	0.9	1.0	0.5	0.3	0.4	3.0
5泊6日以上	10.0	9.6	4.9	1.7	2.4	1.9	0.0	0.9	0.0	0.0	3.0

(参考 8) 発地別県内旅行日数割合(%) [23 年と 22 年の差]



5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔23年、過去4年間〕

年代	年	19年	20年	21年	22年	23年
10代		2.3	1.9	2.0	2.0	2.1
20代		2.2	2.1	2.1	1.9	2.1
30代		2.1	2.2	2.3	2.0	2.0
40代		2.1	2.4	2.3	2.0	2.1
50代		2.0	2.0	2.1	1.8	1.9
60代以上		2.1	2.1	2.1	1.9	2.1
全体		2.1	2.2	2.2	1.9	2.0

県内旅行日数について年代別では、10代と20代が過去2番目に多く、30代と50代が過去2番目に少なく、40代が過去3番目の多さ、60代以上は過去最高(同率)となった。

前年との比較では、横ばいの30代をのぞく年代では増加している。20代と60代以上で0.2日の増加、10代、40代、50代が0.1日の増加となっている。

6 旅行目的

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [23 年、過去 2 年間]

		自然見物 ・町歩き	名所旧跡 観光施設	休養・慰安	食べ物	神仏 霊場巡り	その他
1人	21年 (n=139)	16.6	16.6	1.4	0.7	2.9	61.8
	22年 (n=206)	15.5	25.3	2.9	1.0	7.3	48.0
	23年 (n=298)	24.8	14.1	1.7	2.7	12.8	43.9
家族	21年 (n=1610)	23.0	30.3	5.4	11.1	2.8	27.4
	22年 (n=2206)	16.8	49.8	5.5	5.5	3.4	19.0
	23年 (n=2101)	28.3	34.6	4.4	7.0	3.4	22.3
友人 知人	21年 (n=548)	21.7	25.5	2.9	11.9	1.6	36.4
	22年 (n=503)	17.1	38.3	3.2	8.1	0.8	32.5
	23年 (n=474)	27.8	26.4	4.0	10.8	1.3	29.7
団体	21年 (n=60)	11.7	16.7	46.7	6.7	0.0	18.2
	22年 (n=33)	3.0	60.6	15.2	0.0	0.0	21.2
	23年 (n=24)	8.3	50.0	4.2	4.2	8.3	25.0
その他	21年 (n=5)	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0
	22年 (n=19)	15.8	42.0	0.0	5.3	5.3	31.6
	23年 (n=32)	9.4	21.9	0.0	0.0	9.4	59.3
全体	21年 (n=2362)	22.1	28.0	5.6	10.5	2.5	31.3
	22年 (n=2967)	16.6	46.2	5.0	5.6	3.2	23.4
	23年 (n=2929)	27.5	31.1	4.0	7.1	4.1	26.2

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡」が前年から 15.1 ポイント減少したものの 31.1%と最も多く、次いで「自然見物」が前年比 10.9 ポイント増で 27.5%、「帰省・仕事」が 0.3 ポイント増で 9.7%、「なんとなく」が 0.2 ポイント減で 8.2% (参考9) などとなっている。

旅行形態別に旅行目的の前年比をみると、“一人旅”の「自然見物」が 9.3 ポイント増、「霊場巡り」が 5.5 ポイント増、「名所旧跡」は 11.2 ポイント減などとなっている。特に目立ったのが「霊場巡り」で、平成 21 年度の 2.9%から平成 22 年度が 7.3%、平成 23 年度が 12.8%と 2 年続けて大きく増加している。“家族旅行”では、「自然見物」が 11.5 ポイント増、「名所旧跡」が 15.2 ポイント減となり、“友人・知人との旅行”でも、「自然見物」が 10.7 ポイント増、「名所旧跡」が 11.9 ポイント減となった。

(参考9) 旅行形態別旅行目的割合(%) [23年、過去2年間 全項目]

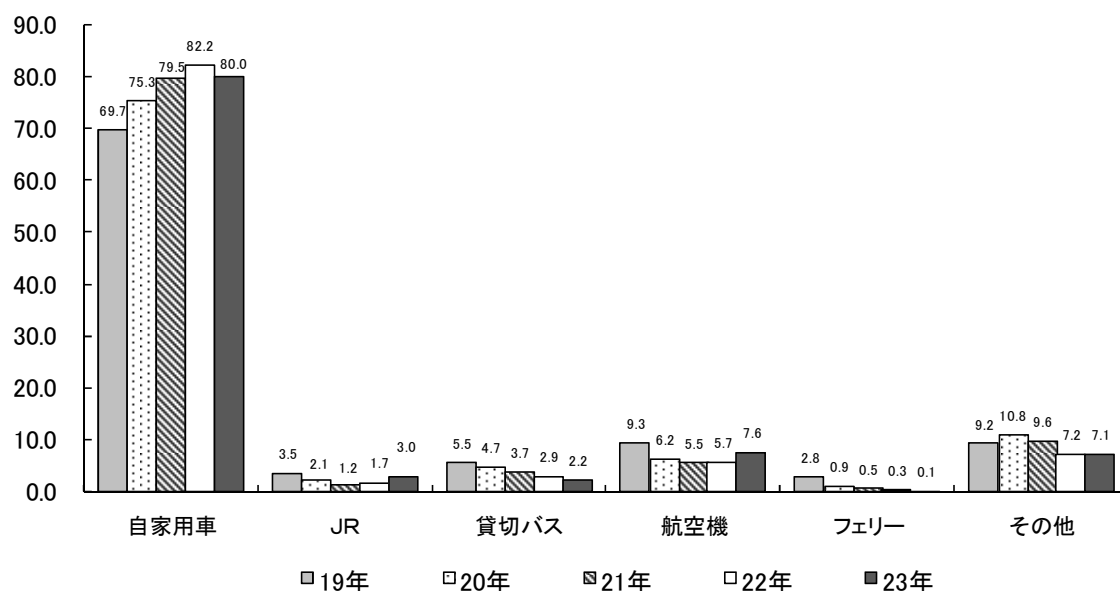
		自然見物 ・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	帰省・仕事	その他
1人	21年	16.6	1.4	0.0	4.3	0.0	0.7	2.9	0.0	16.6	31.6	18.7	7.2
	22年	15.5	2.9	0.0	2.4	1.5	1.0	7.3	0.5	25.3	18.4	16.0	9.2
	23年	24.8	1.7	3.7	1.0	0.7	2.7	12.8	0.3	14.1	15.4	20.8	2.0
家族	21年	23.0	5.4	0.5	4.0	0.1	11.1	2.8	0.9	30.3	4.0	15.7	2.2
	22年	16.8	5.5	0.3	1.4	0.3	5.5	3.4	1.0	49.8	4.9	9.6	1.5
	23年	28.3	4.4	2.7	2.2	0.4	7.0	3.4	1.1	34.6	5.9	8.5	1.5
友人 知人	21年	21.7	2.9	0.2	6.0	2.8	11.9	1.6	0.7	25.5	20.8	3.3	2.6
	22年	17.1	3.2	0.4	3.6	0.6	8.1	0.8	0.8	38.3	19.5	5.4	2.2
	23年	27.8	4.0	4.6	3.0	0.4	10.8	1.3	0.6	26.4	14.4	6.3	0.4
団体	21年	11.7	46.7	0.0	5.0	0.0	6.7	0.0	0.0	16.7	3.3	8.3	1.6
	22年	3.0	15.2	0.0	3.0	6.1	0.0	0.0	0.0	60.6	0.0	9.1	3.0
	23年	8.3	4.2	0.0	4.2	4.2	4.2	8.3	0.0	50.0	0.0	16.6	0.0
その他	21年	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0
	22年	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	42.0	15.8	15.8	0.0
	23年	9.4	0.0	6.2	0.0	6.2	0.0	9.4	0.0	21.9	3.1	31.3	12.5
全体	21年	22.1	5.6	0.4	4.6	0.7	10.5	2.5	0.8	28.0	9.5	12.8	2.5
	22年	16.6	5.0	0.3	1.8	0.5	5.6	3.2	0.9	46.2	8.4	9.4	2.1
	23年	27.5	4.0	3.1	2.2	0.5	7.1	4.1	1.0	31.1	8.2	9.7	1.5

7 入込利用交通機関

(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [23 年、過去 4 年間]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
19年 (n=2316)	1613 69.7	80 3.5	127 5.5	216 9.3	65 2.8	54 2.3	15 0.6	127 5.5	19 0.8
20年 (n=2352)	1771 75.3	50 2.1	110 4.7	146 6.2	21 0.9	65 2.8	14 0.6	164 7.0	11 0.4
21年 (n=2362)	1877 79.5	29 1.2	88 3.7	129 5.5	12 0.5	63 2.7	9 0.4	143 6.0	12 0.5
22年 (n=2967)	2439 82.2	51 1.7	87 2.9	168 5.7	8 0.3	60 2.0	49 1.7	95 3.2	10 0.3
23年 (n=2929)	2344 80.0	86 3.0	65 2.2	221 7.6	4 0.1	56 1.9	45 1.5	91 3.1	17 0.6

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [23 年、過去 4 年間 主要項目のみ]



入込利用交通機関は、今回の調査でも「自家用車」が 80.0%と大半を占めたが、前年の 82.2%からは 2.2 ポイント減少している。一方で、「航空機」が前年比 1.9 ポイント増の 7.6%と過去 2 番目の多さになっている。その他、割合が多かった項目は、「バイク」が前年比 0.1 ポイント減の 3.1%、「JR」が前年比 1.3 ポイント増の 3.0%、「貸切バス」が前年比 0.7 ポイント減の 2.2%と続きいている。

「自家用車」の減少と「航空機」や「JR」の増加は、平成 23 年 6 月に高速道路休日 1,000 円の特別割引制度の廃止による影響を受けていると考えられる。

8 旅行形態

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [23 年、22 年]

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	22年 (n=36)	2.8	41.7	55.5	0.0	0.0
	23年 (n=44)	11.4	72.7	15.9	0.0	0.0
20 代	22年 (n=494)	9.5	39.9	48.4	1.4	0.8
	23年 (n=452)	13.5	38.3	47.4	0.4	0.4
30 代	22年 (n=768)	6.9	76.0	15.8	0.9	0.4
	23年 (n=794)	8.8	72.4	16.6	1.3	0.9
40 代	22年 (n=615)	7.0	83.2	8.8	0.7	0.3
	23年 (n=570)	9.5	82.6	6.7	0.5	0.7
50 代	22年 (n=554)	5.6	86.1	6.5	1.4	0.4
	23年 (n=492)	9.4	80.9	7.7	1.0	1.0
60代以上	22年 (n=500)	6.2	84.2	6.6	1.4	1.6
	23年 (n=577)	10.8	78.3	7.8	0.7	2.4
全 体	22年 (n=2967)	6.9	74.4	17.0	1.1	0.6
	23年 (n=2929)	10.2	71.7	16.2	0.8	1.1

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [23 年、22 年]

		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10 代	22年 (n=36)	2.8	61.1	30.6	5.5	0.0
	23年 (n=44)	11.4	36.4	34.1	15.9	2.2
20 代	22年 (n=494)	9.5	71.0	14.0	4.5	1.0
	23年 (n=452)	13.5	72.3	11.1	2.9	0.2
30 代	22年 (n=768)	6.9	59.8	27.7	4.8	0.8
	23年 (n=794)	8.8	60.4	24.1	5.9	0.8
40 代	22年 (n=615)	7.0	58.0	31.1	3.2	0.7
	23年 (n=570)	9.5	55.3	26.8	7.0	1.4
50 代	22年 (n=554)	5.6	69.7	19.3	4.0	1.4
	23年 (n=492)	9.4	71.3	14.2	3.7	1.4
60代以上	22年 (n=500)	6.2	69.0	14.6	7.6	2.6
	23年 (n=577)	10.8	65.8	14.4	6.8	2.2
全 体	22年 (n=2967)	6.9	64.7	22.4	4.8	1.2
	23年 (n=2929)	10.2	63.8	19.2	5.6	1.2

(参考 10) 年代別旅行形態・同行者数(件) [23 年]

	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10代	5	12	15	5		4		2	1								
20代	61	129	34	10		195	16	2	1	1		1		2			
30代	70	355	181	39		118	10	4		3		2	5	4		2	1
40代	54	287	148	35	1	27	5	4	2				3	1		1	2
50代	46	325	58	14	1	24	10	3	1				5	2	2	1	
60代以上	62	355	68	28	1	24	11	8	2			1	3	1	4	2	7

(参考 11) 年代別旅行形態・同行者数割合(%) [23 年と 22 年の差]

	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10代	8.6	7.8	14.6	8.6		-32.6	-11.1	1.8	2.3								
20代	4.0	0.6	-2.0	-0.0	-0.2	1.0	-0.9	-1.4	0.2	0.0		-0.2	-0.8	-0.4			
30代	1.9	-1.1	-2.9	0.6	-0.3	1.5	-0.6	0.1	-0.1	0.2	-0.3	0.1	0.2	0.1		0.3	0.1
40代	2.5	-0.4	-4.1	3.9	0.0	-2.3	-0.1	-0.1	0.4	-0.2			0.0	0.0		0.0	0.4
50代	3.8	1.4	-6.1	-0.8	0.2	0.0	0.8	0.6	-0.2		-0.2	-0.4	0.1	0.2	0.4	0.2	-0.2
60代以上	4.5	-3.1	-1.2	-1.5	-0.0	-0.0	0.5	0.6	0.1	-0.2		0.2	-0.7	0.2	0.5	-0.1	0.2

※ 各年代ごとに合計 100%になるよう割合を算出し、23 年の割合から 22 年の割合を差し引いたもの。

旅行形態割合は、全体では「1人」が前年比 3.3 ポイント増の 10.2%、「家族」が同 2.7 ポイント減の 71.7%、「友人知人」が同 0.8 ポイント減の 16.2%、「団体」が同 0.3 ポイント減の 0.8%となりました。「1人」旅行はすべての年代で前年から増加している反面、「家族」旅行は 10 代をのぞく各年代で減少となっている。

同行者数割合は、全体では「2~3人」が前年比 0.9 ポイント減の 63.8%、「4~5人」が同 3.2 ポイント減の 19.2%、「6~10人」が同 0.8 ポイント増の 5.6%、「11人以上」が増減なしの 1.2%となった。

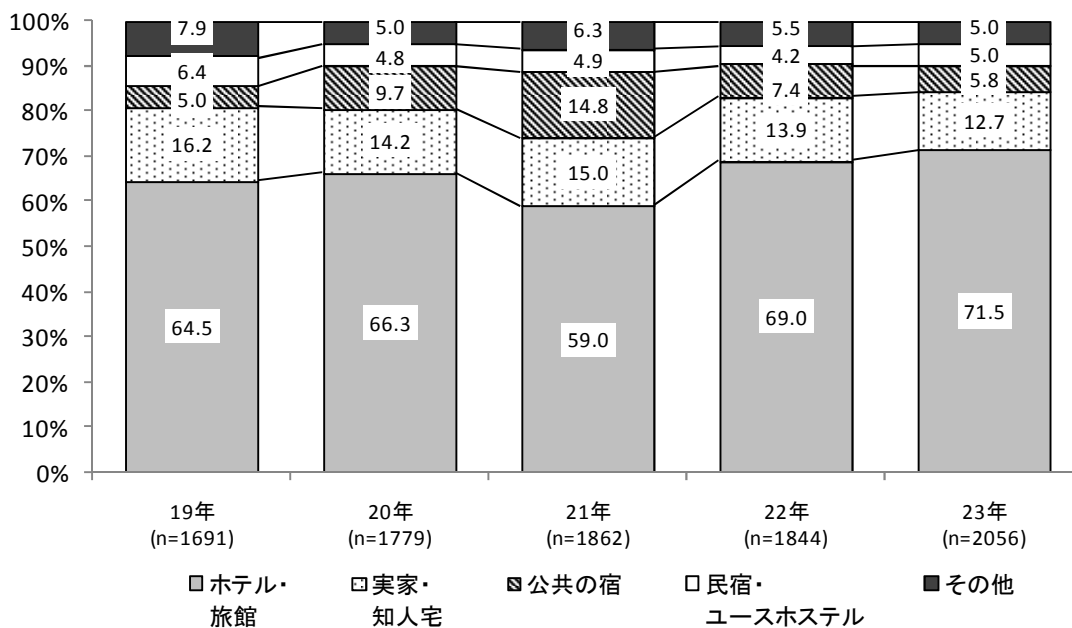
年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると(参考 10)、10代では 2~3人、または 4~5人の家族旅行で大半を占め、20代で多い組み合わせは 2~3人の友人との旅行、または 2~3人の家族旅行となっている。30代は 2~3人の家族旅行が多く、続いて 4~5人の家族旅行、2~3人の友人との旅行。40代は 2~3人、または 4~5人の家族旅行が大半、50代と 60代以上は 2~3人の家族旅行が大半を占めるという結果となっている。

前年との差をみると(参考 11)、主に 40、50代を中心に 4~5人の家族旅行、60代以上で 2~3人の家族旅行が減少している。

9 利用宿泊施設

9.1 年間

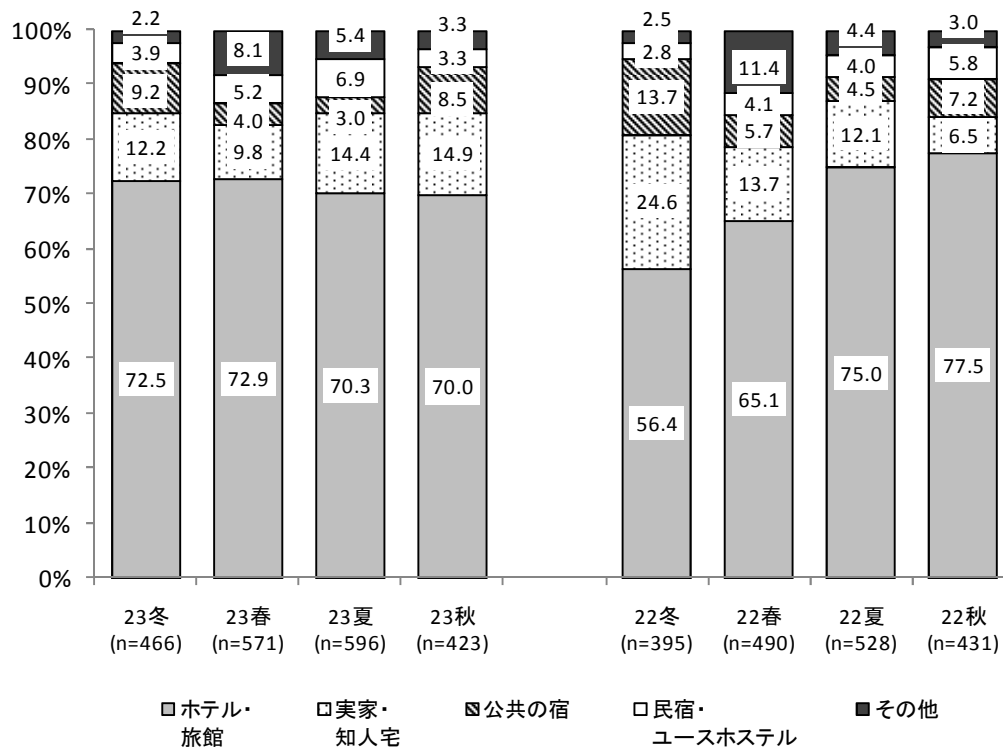
(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [23 年、過去 4 年間]



県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が過去最高の71.5%で最も多くなった。次いで「実家・知人宅」が12.7%、「公共の宿」が5.8%、「民宿・ユースホステル」と「その他」が5.0%となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [23 年、22 年]



四季別に県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間通じて70%以上という結果となり、前年と比較すると、四季ごとで各項目の差が少なくなっている。

今回調査の詳細をみると（参考 11）、冬期は「公共の宿」が 43 件で 9.2%と年間では最も多い割合を占めた。前年と比較すると、「実家・知人宅」の割合が 12.4 ポイント減と大きく減少している。

春期は「ホテル・旅館」の割合が 416 件で 72.9%と年間で最も多い割合を占めた。また、「車中泊」が 27 件と年間で最も多く、年間で 2 番目に多い「キャンプ場」の 12 件とともに、「その他」を 8.1%まで押し上げる要因となっています。

夏期は「民宿・ユースホステル」が 41 件で 6.9%と年間で最も多く、「公共の宿」は 18 件で 3.0%と最も少なくなった。他の項目では、「キャンプ場」の 17 件が年間で最も多くなっている。

秋期は「実家・知人宅」の割合が 63 件で 14.9%と年間で最も多い割合となった。また、「公共の宿」も 36 件で 8.5%と冬期に次いで多くなっている。

(参考 12) 四季別県内利用宿泊施設(件) [23 年]

	実家・ 知人宅	旅館	ホテル	民宿	保養所	キャンプ	車中泊	別荘	会員制	ユースH	公共の宿	その他
冬 (n=466)	57	70	268	18	0	1	6	0	0	0	43	3
春 (n=571)	56	62	354	24	0	12	27	1	0	6	23	6
夏 (n=596)	86	67	352	39	0	17	6	0	0	2	18	9
秋 (n=423)	63	40	256	13	0	2	10	0	0	1	36	2
全体 (n=2056)	262	239	1230	94	0	32	49	1	0	9	120	20

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [23 年、22 年]

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ ユースホステル	その他
10 代	22年 (n=13)	30.8	53.8	7.7	0.0	7.7
	23年 (n=29)	58.6	27.6	0.0	10.3	3.5
20 代	22年 (n=289)	64.4	19.0	3.8	4.5	8.3
	23年 (n=323)	66.9	16.4	3.1	6.5	7.1
30 代	22年 (n=513)	67.5	13.8	9.2	3.9	5.6
	23年 (n=547)	71.8	13.2	5.1	4.8	5.1
40 代	22年 (n=388)	68.8	15.2	7.0	3.1	5.9
	23年 (n=418)	73.9	11.7	4.8	4.1	5.5
50 代	22年 (n=325)	73.2	12.3	6.8	4.0	3.7
	23年 (n=335)	73.1	10.1	8.1	5.7	3.0
60代以上	22年 (n=314)	72.9	7.6	9.2	6.1	4.2
	23年 (n=404)	71.5	11.4	8.7	4.2	4.2

年代別に利用宿泊施設割合の前年比をみると、「ホテル・旅館」の割合は、“10 代”から“40 代”の年代で増加、“50 代”はほぼ横ばい、“60 代以上”で 1.4 ポイント減となった。「実家・知人宅」は、3.8 ポイント増の“60 代以上”をのぞく年代で減少、「公共の宿」は 1.3 ポイント増の“50 代”をのぞく年代で減少している。「民宿・ユースホステル」は、1.9 ポイント減の“60 代以上”をのぞく年代で増加という結果となった。

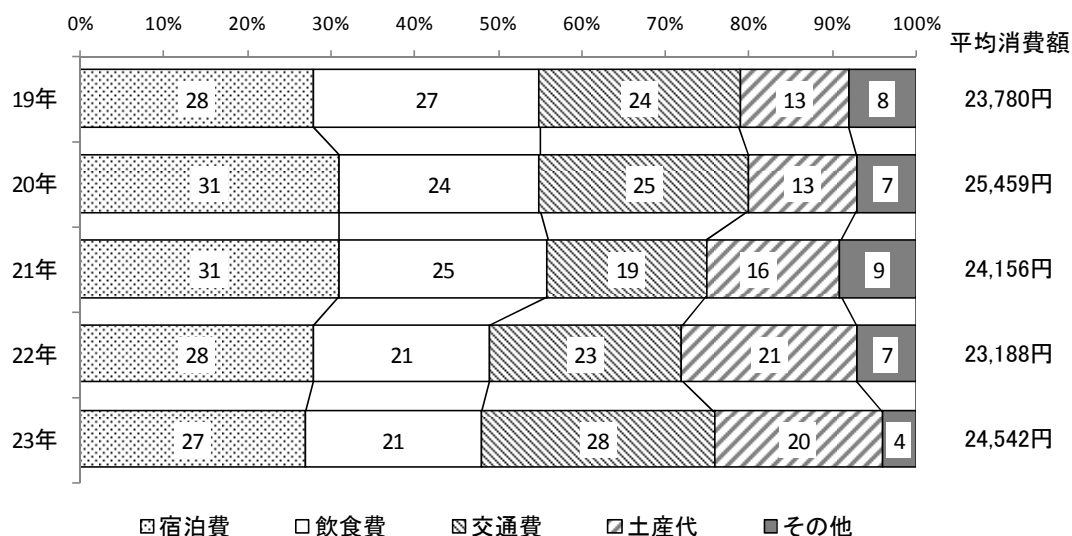
サンプル数の少ない“10 代”をのぞく年代では、前年比で 10 ポイント以上の増減はなく、前年と似通った傾向となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [23 年、過去 4 年間]



(参考 12) 県内平均消費額費目別内訳(円) [23 年、過去 2 年間]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他
21年	7,690	6,020	4,485	3,806	2,155
22年	6,490	4,948	5,345	4,909	1,496
23年	6,540	5,064	6,990	4,911	1,037

県内消費額の年間平均金額は、前年比 1,354 円の増加で 24,542 円と平成 19 年度の調査から通してみると、過去 2 番目の高さとなった。費目別の割合では、「宿泊費」「飲食費」「その他」が過去最低、「土産代」が過去 2 番目の多さ、「交通費」が過去最高となっている。

「交通費」の増加は、高速道路休日 1,000 円の特別割引制度の廃止の影響と考えられる。

費目別の平均消費額をみると(参考 12)、「宿泊費」が 50 円増、「飲食費」が約 120 円増、「交通費」が約 1,650 円増、「土産代」がほぼ横ばい、「その他」が約 460 円減という結果となっている。

(参考 13) 調査地別県内平均消費額(円) [23 年、22 年]

調査地	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
22年	22,314	20,143	17,676	21,396	24,164	27,623	18,155	20,525	28,748	29,602
23年	25,422	20,569	18,010	22,919	29,064	26,924	16,690	21,387	30,122	28,517
前年との差	3,108	426	334	1,523	4,900	▲ 699	▲ 1,465	862	1,374	▲ 1,085

調査地別の年間平均消費額は(参考 13)、「四万十川」が 30,122 円で最も高く、「土佐和紙工芸村」が 16,690 円で最も低くなった。

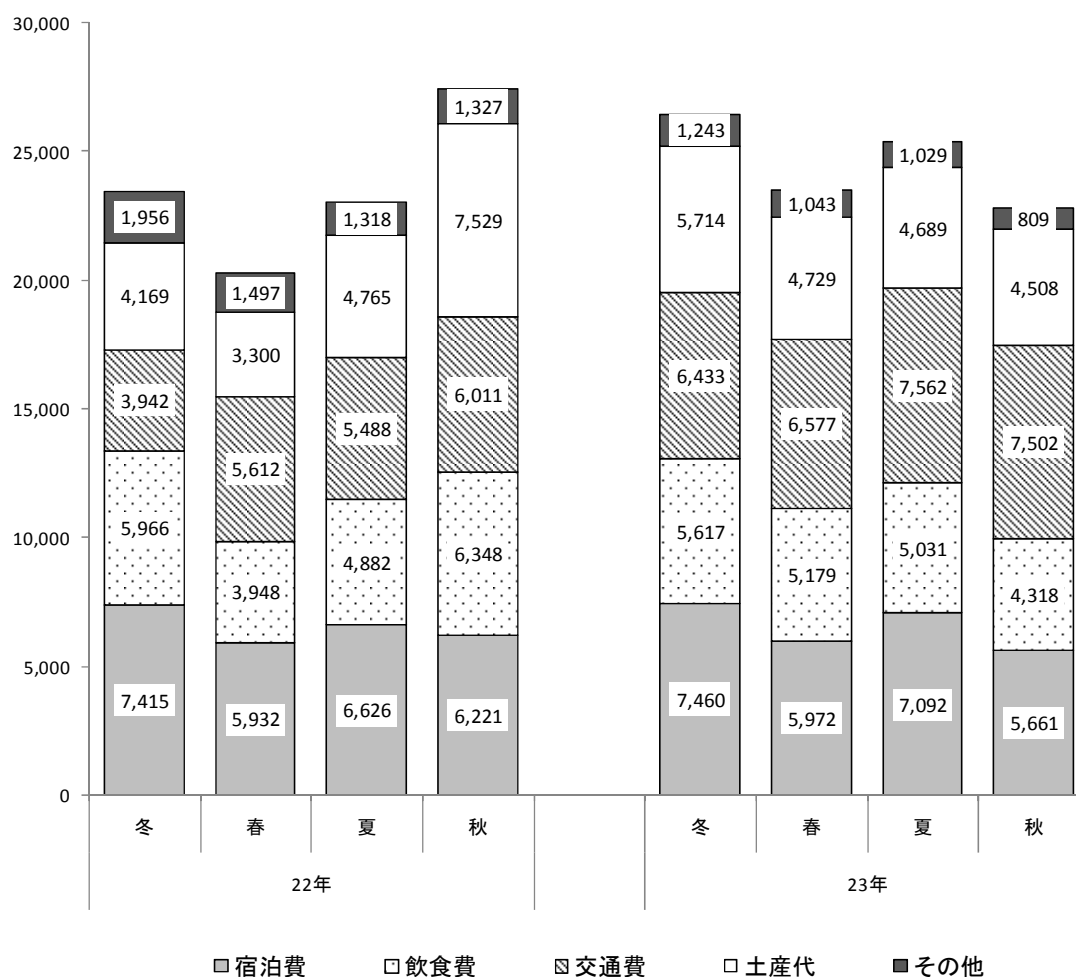
日帰り客と宿泊客の割合(参考 2)で、宿泊客の割合が多かった「四万十川」や「桂浜」などでは平均消費額が高くなっている。しかし、発地ブロック別入込割合(参考 4)で中四国からの入込割合が多く、日帰り客の割合も多かった「土佐和紙工芸村」や「モネの庭」、「アンパンマンミュージアム」などでは平均消費額が低くなっている。

10.1.2 四季別

(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [23 年、22 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	22年	32	25	17	18	8	23,447円	3,019円
	23年	28	21	24	22	5	26,466円	
春	22年	29	20	28	16	7	20,288円	3,212円
	23年	25	22	28	20	5	23,500円	
夏	22年	29	21	24	20	6	23,079円	2,324円
	23年	28	20	30	18	4	25,403円	
秋	22年	23	23	22	27	5	27,435円	▲ 4,638円
	23年	25	19	33	20	3	22,797円	

(図 10-3) 四季別県内消費額費目別平均消費額(円) [23 年、22 年]



四季別の平均消費額を前年と比較すると、4,638円減少した秋期以外で増加となり、冬期が3,019円、春期が3,212円、夏期が2,324円の増加となっている。

それぞれの費目で割合が最も多くなった時期は、「宿泊費」が冬・夏期、「飲食費」が春期、「交通費」が秋期、「土産代」が冬期、「その他」が冬・春期となっている。また、それぞれの費目の消費額が最も高くなった時期は、「宿泊費」「飲食費」「土産代」「その他」は冬期、「交通費」は夏期という結果となった。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [23年、22年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10代	22年	17	28	28	21	6	16,557円	2,206円
	23年	17	22	32	21	8	18,763円	
20代	22年	21	25	25	22	7	21,348円	2,493円
	23年	23	23	31	18	5	23,841円	
30代	22年	29	21	22	21	7	23,586円	▲ 305円
	23年	26	21	28	20	5	23,281円	
40代	22年	28	21	23	21	7	23,521円	1,857円
	23年	29	21	26	19	5	25,378円	
50代	22年	28	20	23	23	6	21,761円	2,392円
	23年	26	21	28	21	4	24,153円	
60代以上	22年	33	18	23	21	5	26,282円	608円
	23年	31	20	24	21	4	26,890円	

年代別の平均消費額は、305円減少した30代以外の年代で増加となった。

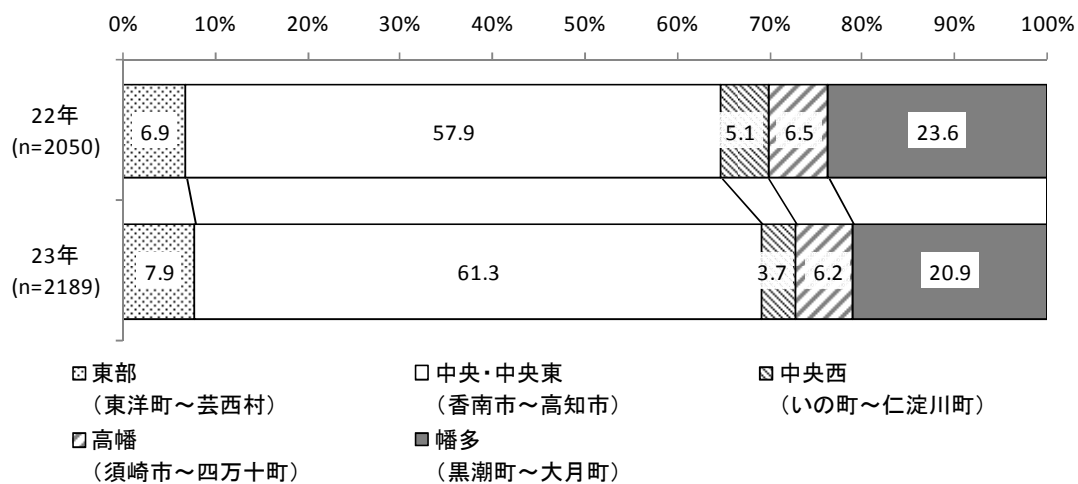
費目別の割合を前年と比較すると、「宿泊費」は10代が横ばい、20代と40代で増加、30代と50代、60代以上で減少している。「飲食費」は10代と20代が減少、30代と40代は横ばい、50代と60代以上で増加。「交通費」は全ての年代で増加しており、「土産代」は20代から50代まで減少、10代と60代以上は横ばい。「その他」は10代をのぞく全ての年代で減少という結果となっている。

(参考)動態調査による県外観光客一人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	H20	H21	H22	(H20~22平均)	H23
県外観光客総数(人)	3,053,196	3,155,791	4,359,415	3,522,801	3,882,268
県外観光客一人当たり消費額(円)	25,459	24,156	23,188	24,268	24,542
<内訳> 宿泊費	7,907	7,690	6,490	7,362	6,540
飲食費	6,100	6,020	4,948	5,689	5,064
交通費	6,486	4,485	5,345	5,439	6,990
土産	3,291	3,806	4,909	4,002	4,911
その他	1,675	2,155	1,496	1,775	1,037
県外観光客の総消費額(百万円)	77,731	76,231	101,086	85,016	95,279
生産誘発効果(百万円)	125,669	123,004	153,421	134,031	144,705
生産誘発倍率(倍)	1.62	1.61	1.52	1.58	1.52

1 1 県内宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [23 年、22 年]

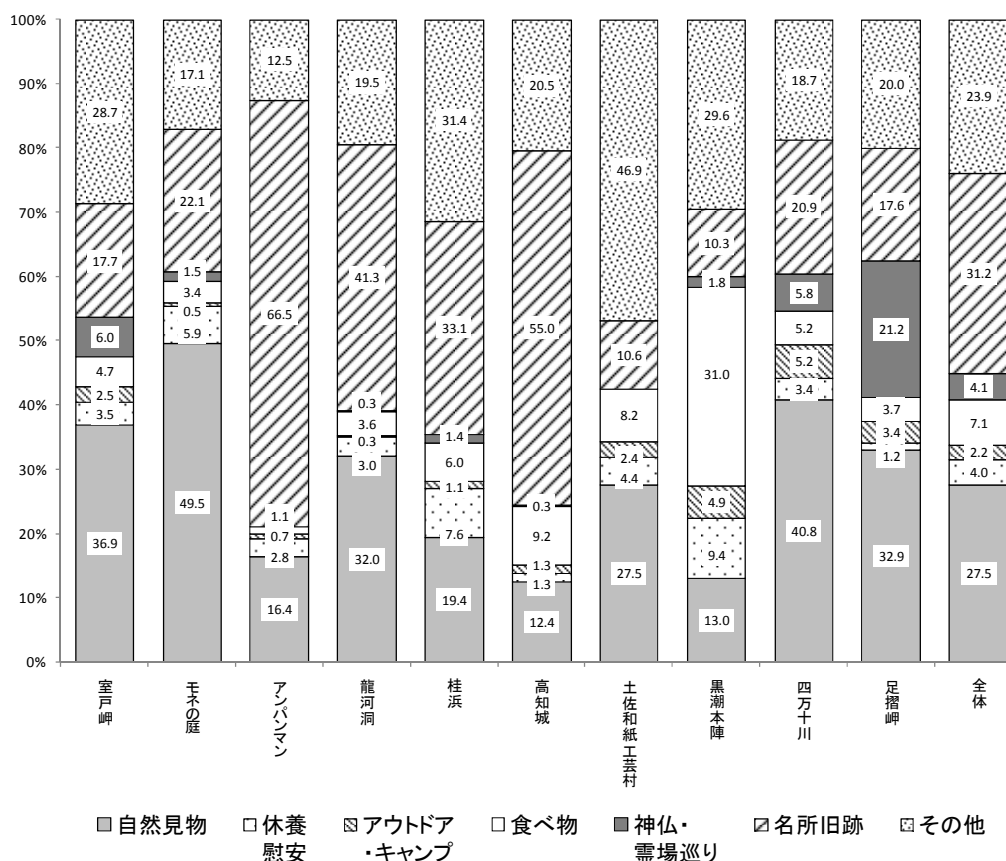


県内での宿泊地域の割合は、「中央・中央東」が前年比 3.4 ポイント増の 61.3%で最も多くなった。次いで「幡多」が同 2.7 ポイント減の 20.9%、「東部」が同 1.0 ポイント増の 7.9%、「高幡」が同 0.3 ポイント減の 6.2%、「中央西」が同 1.4 ポイント減の 3.7%となっている。

12 調査地別分析

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [23 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [23 年]

	自然見物	休養 慰安	アウトドア ・キャンプ	食べ物	神仏・ 霊場巡り	名所旧跡	その他
室戸岬	36.9	3.5	2.5	4.7	6.0	17.7	28.7
モネの庭	49.5	5.9	0.5	3.4	1.5	22.1	17.1
アンパンマン	16.4	2.8	0.7	1.1	0.0	66.5	12.5
龍河洞	32.0	3.0	0.3	3.6	0.3	41.3	19.5
桂浜	19.4	7.6	1.1	6.0	1.4	33.1	31.4
高知城	12.4	1.3	1.3	9.2	0.3	55.0	20.5
土佐和紙工芸村	27.5	4.4	2.4	8.2	0.0	10.6	46.9
黒潮本陣	13.0	9.4	4.9	31.0	1.8	10.3	29.6
四万十川	40.8	3.4	5.2	5.2	5.8	20.9	18.7
足摺岬	32.9	1.2	3.4	3.7	21.2	17.6	20.0
全体	27.5	4.0	2.2	7.1	4.1	31.2	23.9

※ 背景色+太字は旅行目的ごとの上位2位。

「室戸岬」と「四万十川」は“自然見物”が最も多く、“その他（ドライブを含む）”や“名所旧跡”も多くなっている。また、足摺岬と同様に他の調査地と比べ、“神仏・霊場巡り”も多くなっている。

「桂浜」は“名所旧跡”と“その他”が多く、全体の割合に近くなっている。桂浜を旅行の起点として、高知城周辺や幡多地域、東部など他のエリアに向かう旅行者も多く見られた。

「足摺岬」は“自然見物”と“神仏・霊場巡り”が多く、特に金剛福寺が近くにあるため、八十八ヶ所の巡礼に合わせて観光する旅行者が多く見られた。

「高知城」は“名所旧跡”で半数以上を占めており、日曜市や桂浜周辺などの主要観光地と合わせて訪問する旅行者が多く見られた。また、“食べ物”も黒潮本陣に次いで多く、ひろめ市場などの高知市内の食事処とセットで訪問する旅行者が多く見られた。

「アンパンマンミュージアム」と「龍河洞」も“名所旧跡”で多数を占めており、のいち動物公園や龍馬歴史館など、周辺の観光施設と合わせて観光するケースも多く見られた。

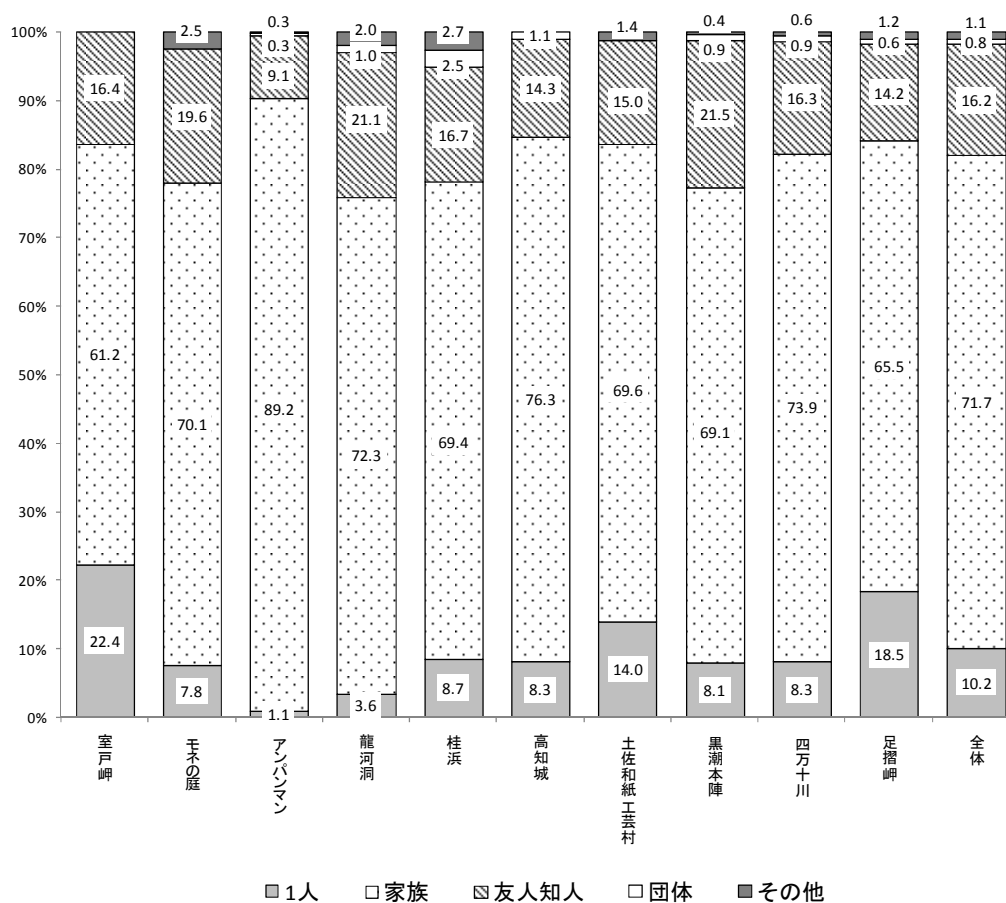
「土佐和紙工芸村」は“その他”が半数近くを占め、“自然見物”や“食”も多くなっている。ドライブやツーリングの立寄り地点、高知市内や幡多地域などの中継地点になっている旅行者が大半であった。

「モネの庭」は“自然見物”の割合が調査地別で最も多く、次いで“名所旧跡”となった。女性の旅行者を中心に、モネの庭を主な目的として訪問するケースが多く、室戸岬や中岡慎太郎館などと合わせて観光する旅行者も見られた。

「黒潮本陣」は、“食べ物”と“休養慰安”の割合が調査地別で最も多くなった。カツオ料理や薫焼き体験、久礼大正町市場での海産物などが目的の旅行者が多く、黒潮本陣での宿泊や温泉を主な目的に訪問した旅行者もいた。

12.2 旅行形態割合

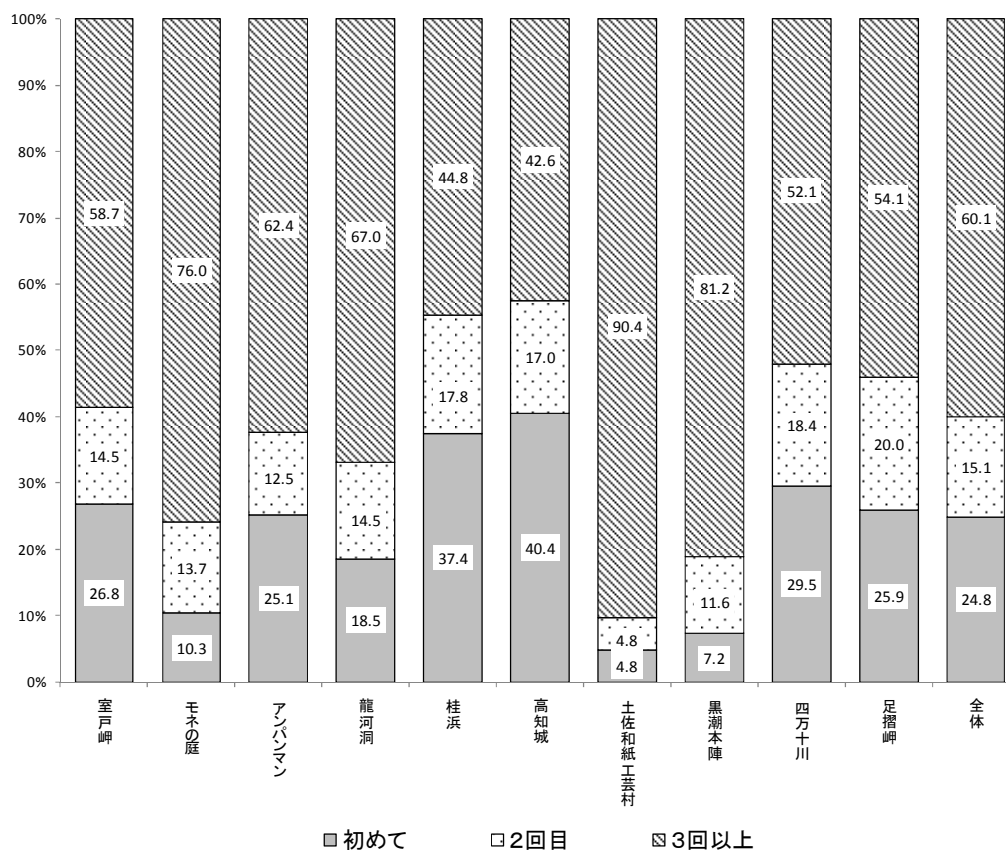
(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [23 年]



調査地別の旅行形態割合を項目別にみると、「1人」は室戸岬、足摺岬、土佐和紙工芸村で10%を超えており、「家族」はアンパンマンミュージアムが89.2%と群を抜いて多く、高知城、四万十川が続いて多くなっている。「友人知人」は黒潮本陣、龍河洞、モネの庭で約20%、「団体」は桂浜が最も多くなっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [23 年]



(参考 14) 過去来県回数割合(%) [23 年、過去 3 年間]

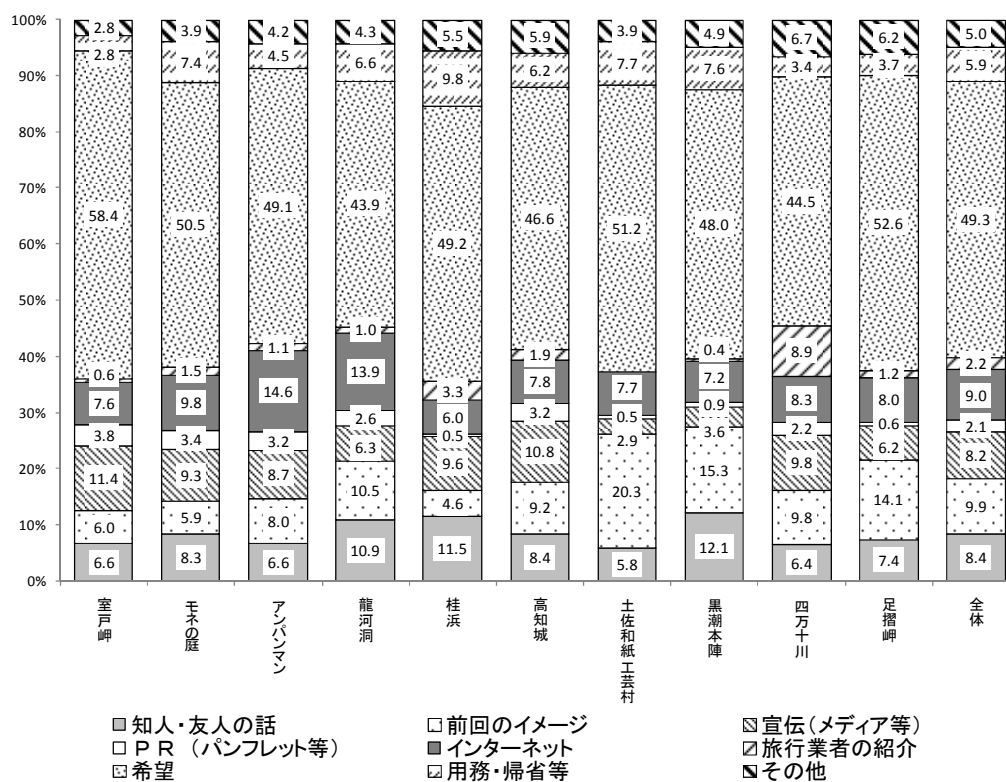
	初めて	2回目	3回以上
20年	22.4	21.7	55.9
21年	22.4	21.6	56.0
22年	21.9	17.4	60.7
23年	24.8	15.1	60.1

全体の過去来県回数は、「初めて」の旅行者が 24.8%、「2回目」が 15.1%、「3回以上」が 60.1%という結果となった。平成 20 年度の調査から通してみると（参考 14）、「初めて」の割合は過去最高となり、前年比で 2.9 ポイント増加している。「2回目」は前年比 2.3 ポイント減で過去最低、「3回以上」は前年とほぼ同じ水準となった。

過去来県回数別で割合の多い調査地は、「初めて」は高知城と桂浜、「2回目」は足摺岬と四万十川、「3回以上」は土佐和紙工芸村と黒潮本陣となっている。

12.4 動機割合

(図 12-5) 調査地別動機割合(%) [23 年]



(表 12-6) 調査地別動機割合(%) [23 年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR (パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	希望	用務・帰省等	その他
室戸岬	6.6	6.0	11.4	3.8	7.6	0.6	58.4	2.8	2.8
モネの庭	8.3	5.9	9.3	3.4	9.8	1.5	50.5	7.4	3.9
アンパンマン	6.6	8.0	8.7	3.2	14.6	1.1	49.1	4.5	4.2
龍河洞	10.9	10.5	6.3	2.6	13.9	1.0	43.9	6.6	4.3
桂浜	11.5	4.6	9.6	0.5	6.0	3.3	49.2	9.8	5.5
高知城	8.4	9.2	10.8	3.2	7.8	1.9	46.6	6.2	5.9
土佐和紙工芸村	5.8	20.3	2.9	0.5	7.7	0.0	51.2	7.7	3.9
黒潮本陣	12.1	15.3	3.6	0.9	7.2	0.4	48.0	7.6	4.9
四万十川	6.4	9.8	9.8	2.2	8.3	8.9	44.5	3.4	6.7
足摺岬	7.4	14.1	6.2	0.6	8.0	1.2	52.6	3.7	6.2
全体	8.4	9.9	8.2	2.1	9.0	2.2	49.3	5.9	5.0

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位。

全体の動機割合は、「本人・家族の希望」が49.3%と約半数を占め、最も多くなった。次いで「前回のイメージ」が9.9%、「インターネット」が9.0%、「知人・友人の話」が8.4%、「宣伝（メディア等）」が8.2%などと続いている。

項目別で割合が多くなった調査地をみると、「知人・友人の話」は黒潮本陣や桂浜、「前回イメージ」は土佐和紙工芸村や黒潮本陣、「宣伝（メディア等）」は室戸岬や高知城、「PR（パンフレット等）」は室戸岬やモネの庭、「インターネット」はアンパンマンミュージアムや龍河洞、「旅行業者の紹介」は四万十川や桂浜、「本人・家族の希望」は室戸岬や足摺岬、「用務・帰省等」は桂浜などとなっている。

13 総括

今回の調査を振り返り、高知県観光がさらなる発展を遂げるため、特に以下の3点が必要と考えられる。

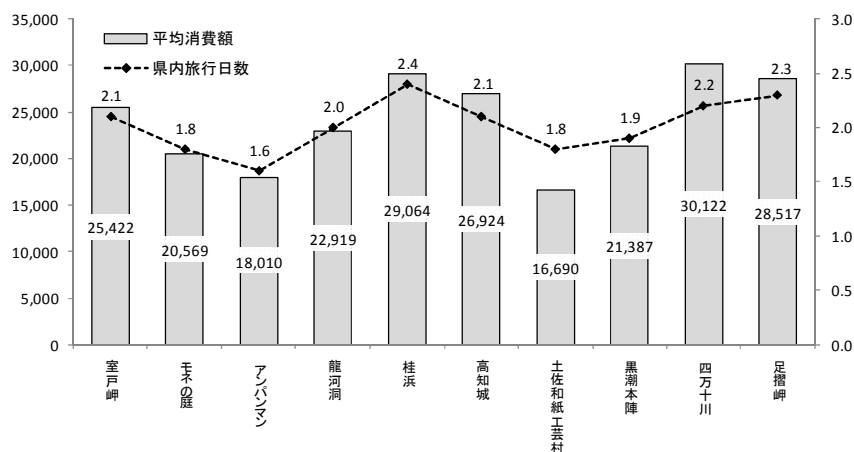
1. 宿泊客の割合、および宿泊日数の増加

県内旅行日数と平均消費額の関係は、ほぼ比例している。そのため、消費額を上げるためには宿泊日数を増加させる取り組みが有効的となる。

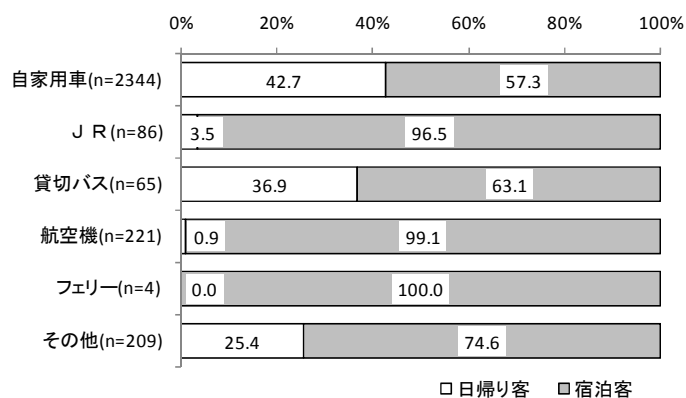
例えば、家族連れの旅行者に対し家族で楽しめる観光スポットなどの情報提供と、子供同伴でも気兼ねなく宿泊できる良質な施設の提供をすることで旅行日数を増やし、消費額を増加させる取り組みなどが考えられる。

また、魅力的な観光スポットや、宿泊することを前提とした夜型イベントなどの情報提供も考えられる。

(図 13-1) 調査地別県内平均消費額(円)、県内旅行日数(日) [23 年]



(図 13-2) 入込交通機関別日帰り客・宿泊客割合(%) [23 年]



2. 旅行費用を消費できる環境の整備

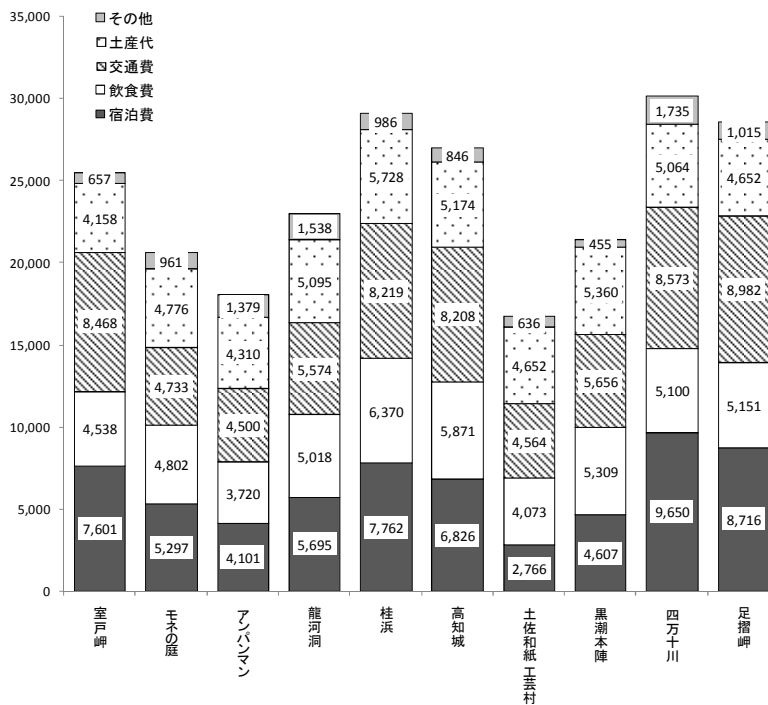
調査地別の県内平均消費額（図 13-3）を費目別で見ると、室戸岬の土産代 4,158 円、アンパンマンミュージアムは飲食費 3,720 円、土産代 4,310 円などが目立って少ないことが分かる。

室戸岬は世界ジオパーク認定という話題性で集客力が高まっている一方で、訪れた旅行者は飲食や土産など消費する機会がないために費用（予算）を使わず旅行を終えてしまった可能性もある。

アンパンマンミュージアムでも、アンケートに「施設周辺に家族向けの食事処が欲しい」という要望が多くあった。

こういった機会の損失を取り除くためには、地域の特産品を活かした魅力のある土産物、話題にあわせた記念品などの商品開発や販売機会の整備、家族向けの食事の提供、これらに関する旅行者への情報提供やPRなどが必要と考えられる。

（図 13-3）調査地別県内平均消費額(円) [23 年・費目別]



3. 旅行目的に対応した取り組み

旅行目的によって、旅行者の動向や消費の傾向は異なり、旅行目的別に平均消費額と県内旅行日数（図 13-4）をみると、観光目的に限った場合、平均消費額は 31,207 円の神仏・霊場巡りが最も高く、旅行日数では 2.7 日のアウトドアが最も多くなっている。反対に最も低かったのが買い物で、平均消費額 12,506 円、旅行日数 1.1 日となった。

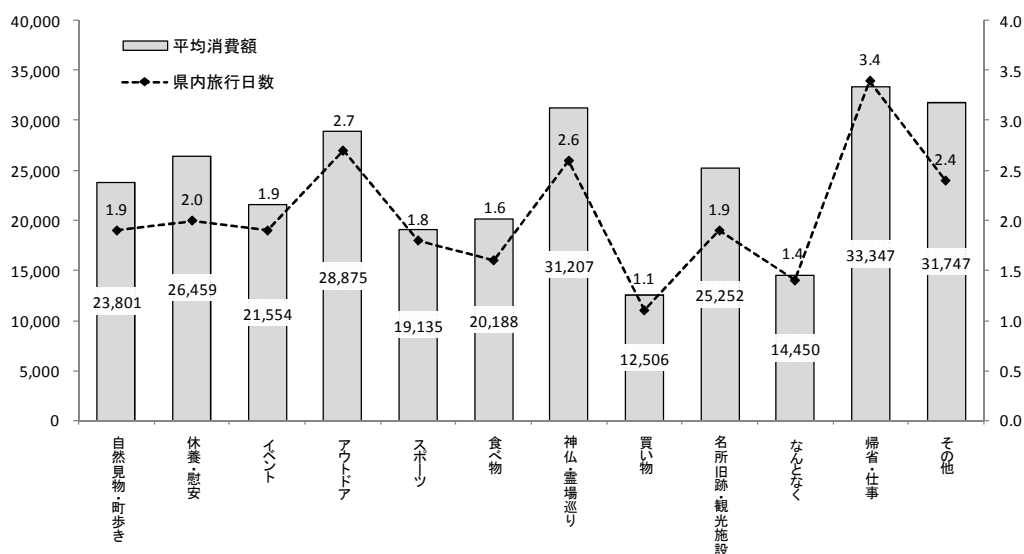
神仏・霊場巡りは2年続けて割合が増加（表 6-1）しており、平均消費額、旅行日数ともに全体平均を大きく上回っている。また、季節を問わず平均的に旅行者が訪れている（図 13-5）ことを考えると重要な観光資源となっている。そこで、霊場巡り以外の目的で再度来県してもらうためにも、訪れた旅行者に満足してもらうための取り組み、環境整備が重要となる。

アウトドア目的の旅行者は春と夏に集中しており（図 13-5）、四万十川や仁淀川周辺でのカヌーや川遊びなどが目立っていた。旅行日数が 2.7 日と最も長いため、滞在型観光のモデルケースになると思われる。アウトドア目的のニーズを掘り起こすために、気軽に参加・体験できるメニュー作りや、リピーターを増やすための満足度を上げる取り組みなどが考えられる。

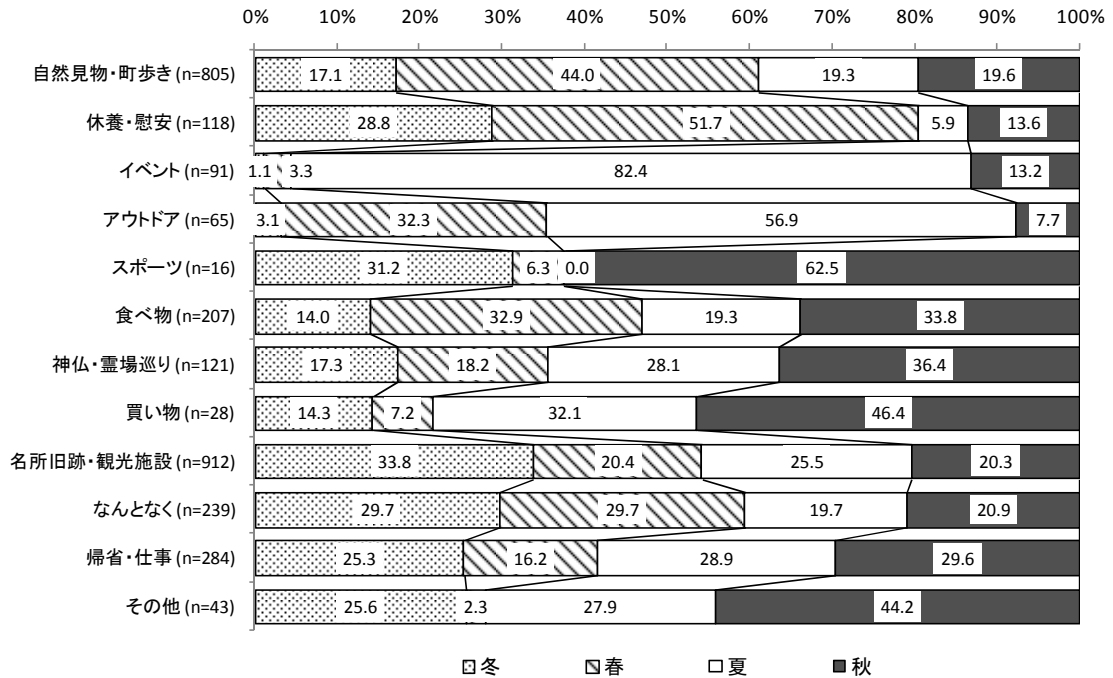
食べ物が目的の旅行者は、カツオのシーズンの春と秋に割合が多くなっている（図 13-5）。全体で 7.1%を占める旅行目的になっているが、平均消費額は 20,188 円、旅行日数が 1.6 日と全体平均を下回っている。その大きな要因は、54.1%と半数を超えている日帰り客の割合にある（図 13-6）。そのため、宿泊客の割合を増加させることが平均消費額の増加に効果的と考えられる。居酒屋巡りや屋台ツアーなど、宿泊が前提になる夜型の食イベントの企画に取り組むことも必要と考えられる。

旅行目的割合が合わせて 58.6%と高知県観光の大きな役割を担っている自然見物や名所旧跡は、旅行日数が 1.9 日となっている。日帰り客の割合はどちらも 35%程度であるため、1泊してもらう取り組みが有効となると考えられる。

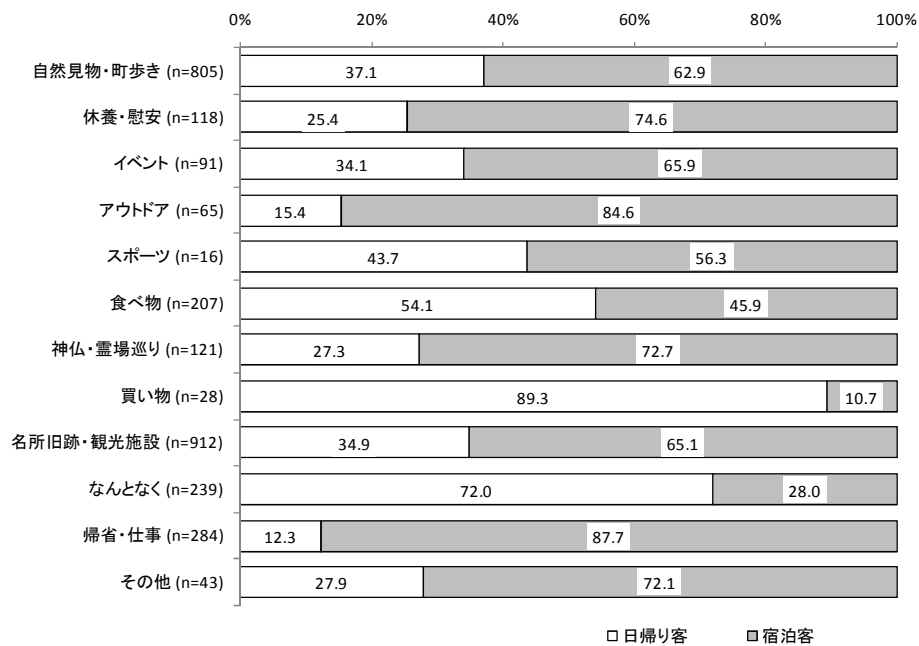
（図 13-4） 旅行目的別県内平均消費額(円)、県内旅行日数(日) [23 年]



(図 13-5) 旅行目的別調査時期割合(%) [23 年]



(図 13-6) 旅行目的別日帰り客・宿泊客割合(%) [23 年]



高知県観光客アンケート調査票

Q1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名: _____)	海外の場合 (国名: _____)
↓ 高知県内の場合 → (市町村名 _____)	

Q2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

Q3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り	2. 宿泊	
	↓	↓
	→ 宿泊数 _____ 泊	→ そのうち県内 _____ 泊
		⇒ 県内宿泊施設数 _____ 施設

< 県内宿泊施設 >

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

< 県内宿泊場所 >

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

Q4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス		
2. 観光		
「2 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えてください。		
01 自然見物・町歩き	02 休養・慰安	03 祭り・イベント
04 登山・アウトドア・キャンプ	05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)	
06 食べ物 (味覚・酒)	07 神仏・霊場巡り	08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽	10 なんとなく (ドライブ等含む)	
11 その他 ()		
3. 帰省・知人訪問		
4. (1～3のどれでもない) その他		

Q5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話	2. 前回のイメージ	3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等)	5. インターネット (携帯電話含む)	
6. 旅行業者の紹介・ツアー参加	7. 来たかった・家族の希望	
8. 帰省	9. その他	

Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒にの旅行ですか。※子供や乳幼児も含む

() 人
 2人以上の場合
 → 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答えください)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目以上

Q10. (県外にお住まいの方のみお答えください)

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

また、この県を訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

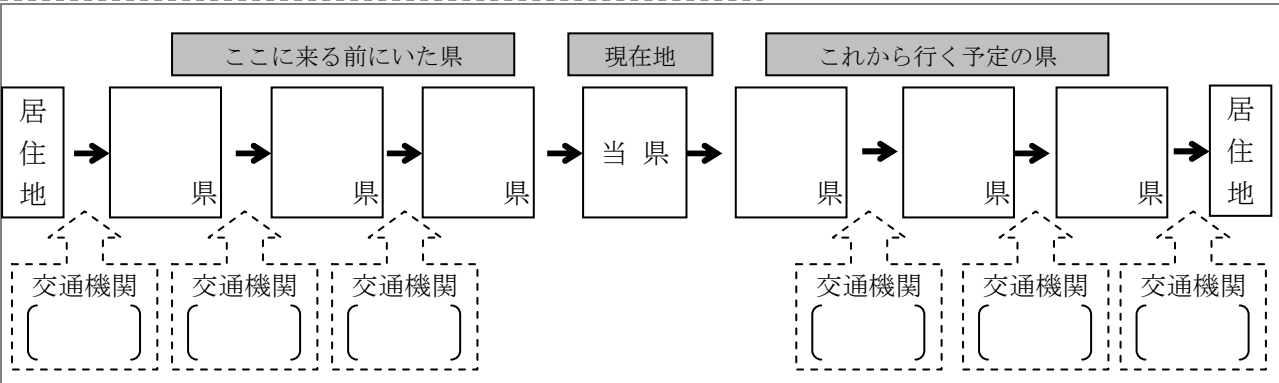
高知県までの主な交通機関 [] 高知県内での主な交通機関 []

ここに来る前にいた場所						現在地
居住地	→	→	→	→	→	調査地点
交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []
これから行く予定の場所						居住地
調査地点	→	→	→	→	→	居住地
交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []

【表】交通機関

① J R 新幹線	② J R 在来線	③ 私鉄・地下鉄	④ モノレール	⑤ -1 貸切バス
⑤ -2 観光バス (MY遊バス等含む)	⑥ 高速バス	⑦ 市内バス・路線バス		
⑧ 路面電車	⑨ タクシー・ハイヤー	⑩ レンタカー	⑪ 自家用車、社用・公用車	
⑫ 飛行機	⑬ フェリー	⑭ バイク	⑮ その他	

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入ください



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ -1 貸切バス
- ⑤ -2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ←表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用
①交通費	(県内分) 円		(県外分) 円
②宿泊費	(県内分) 円		
③土産代	(県内分) 円		
④飲食費	(県内分) 円		
⑤入場料	(県内分) 円		
⑥その他	(県内分) 円		
⑦パック料金			円
		↑	<input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせください）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせください

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆

※調査票コード	都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
1. 観_共通_日				:	